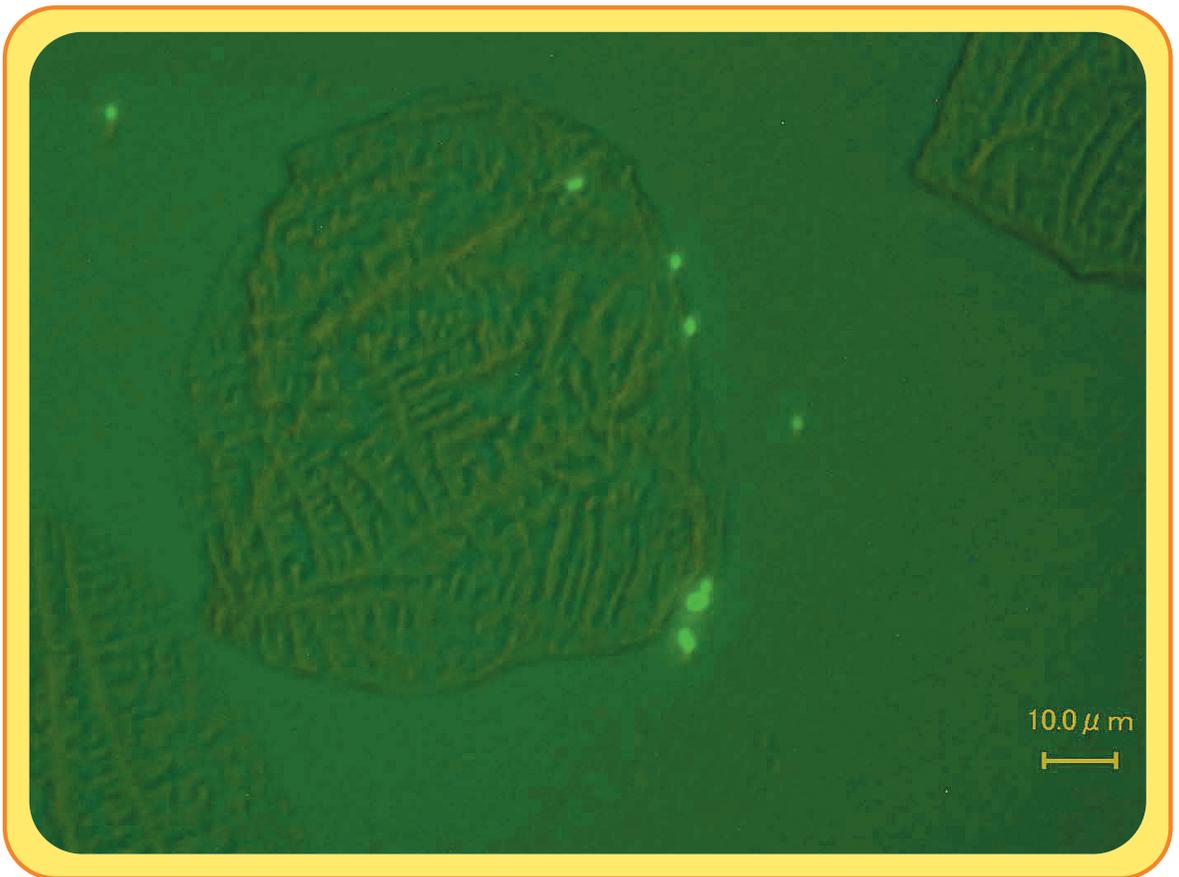


第24号

# さくらしま

2010



鹿児島大学大学院  
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室

同門会誌

〔表紙写真の説明〕

細菌が感染症を引き起こすには、まず宿主細胞表面への接着が始まる。蛍光染色した肺炎球菌がヒト頬粘膜細胞に接着している様子を示す。

川島雅樹

# 目

# 次

|                          |    |
|--------------------------|----|
| 巻頭言                      | 1  |
| 会長の挨拶                    | 2  |
| I. 教室来訪者                 | 4  |
| II. 教室行事                 |    |
| 1. 共催の講演会                | 5  |
| 2. 第12回 耳鼻咽喉科桜島フォーラム     | 8  |
| 3. 第9回 「鼻の日」市民講座         | 8  |
| 4. 第3回耳の日ならびにアレルギー週間公開講座 | 11 |
| 5. 水曜セミナー（2009年4月～12月）   | 13 |
| III. 同門会報告               | 15 |
| IV. 地域医療報告               |    |
| 1. 学校保健（統計報告）            | 17 |
| V. 特殊外来通信                |    |
| 1. アレルギー外来               | 20 |
| 2. 副鼻腔炎外来                | 20 |
| 3. 難聴・耳鳴り外来              | 21 |
| VI. 病理集計                 | 22 |
| VII. 各省庁諸研究              | 23 |
| VIII. 業績                 |    |
| 1. 原著                    | 24 |
| 2. 総説                    | 26 |
| 3. その他                   | 28 |
| 4. 国内学会発表                | 28 |
| 5. 国際学会発表                | 38 |
| IX. 医局通信                 |    |
| 1. 医局人事                  | 39 |
| 2. 学会報告                  |    |
| ① 第2回気道粘膜における好酸球性炎症を考える会 | 40 |

|                   |                                                                                                                               |    |
|-------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| ②                 | 第29回気道分泌研究会……………                                                                                                              | 40 |
| ③                 | 第110回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会…                                                                                                       | 41 |
| ④                 | 第21回日本アレルギー学会春季臨床大会…………                                                                                                       | 41 |
| ⑤                 | 第33回頭頸部癌学会・第30回頭頸部手術手技研究会…                                                                                                    | 42 |
| ⑥                 | 第4回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会…                                                                                                       | 42 |
| ⑦                 | 第71回耳鼻咽喉科臨床学会総会および学術講演会…                                                                                                      | 43 |
| ⑧                 | 第16回マクロライド新作用研究会……………                                                                                                         | 43 |
| ⑨                 | 第24回九州連合地方部会学術講演会……………                                                                                                        | 44 |
| ⑩                 | 第22回喉頭科学会総会・学術講演会……………                                                                                                        | 45 |
| ⑪                 | 第48回日本鼻科学会総会・学術講演会に参加して…                                                                                                      | 45 |
| ⑫                 | 第19回日本耳科学会総会・学術講演会……………                                                                                                       | 46 |
| ⑬                 | 第59回日本アレルギー学会秋季学術大会…………                                                                                                       | 46 |
| ⑭                 | 第57回日本化学療法学会, 第52回日本感染症学会に参加して…                                                                                               | 47 |
| ⑮                 | 第20回頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会…                                                                                                       | 47 |
| ⑯                 | 第28回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会…………                                                                                                      | 48 |
| ⑰                 | 第22回日本口腔・咽喉科学会総会ならびに学術講演会…                                                                                                    | 49 |
| ⑱                 | Rhinology World 2009 Philadelphia, Pennsylvania USA April 15-19, 2009…                                                        | 50 |
| ⑲                 | 6 <sup>th</sup> Extraordinary International Symposium on Recent Advances in<br>Otitis Media Seoul, Korea May-6-10, 2009 …………… | 56 |
| ⑳                 | 14 <sup>th</sup> International Congress of Mucosal Immunology (ICMI 2009)<br>July5-9・Boston, Massachusetts USA ……………          | 57 |
| 4. 関連病院便り         |                                                                                                                               |    |
| ①                 | 国立病院機構 鹿児島医療センター09……………                                                                                                       | 59 |
| ②                 | 鹿児島市立病院便り……………                                                                                                                | 61 |
| ③                 | 藤元早鈴病院便り……………                                                                                                                 | 65 |
| ④                 | 鹿児島生協病院……………                                                                                                                  | 66 |
| ⑤                 | 天辰病院便り……………                                                                                                                   | 67 |
| ⑥                 | はるか離島の診療所から……………                                                                                                              | 68 |
| ⑦                 | 鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科ホームページ…                                                                                                    | 70 |
| ⑧                 | いぶすき菜の花マラソン顛末記……………                                                                                                           | 70 |
| X. 関連病院……………      |                                                                                                                               |    |
| XI. 海外同門会名簿……………  |                                                                                                                               |    |
| XII. 自治医大研修生…………… |                                                                                                                               |    |
| 同門会会則……………        |                                                                                                                               |    |
| 編集後記……………         |                                                                                                                               |    |

## 巻 頭 言

黒 野 祐 一

今朝のテレビで、「完全地上デジタル放送化まであと1年」と大きく報じられていました。アナログ時代に生まれ育った者として一抹の寂しさを感じるとともに、デジタル時代の鮮烈な幕開けに翻弄されつつもその恩恵に浴している一人として、近未来の訪れに早くも心を躍らせています。

しかし、ふと周りを見渡すと、もうアナログ方式のものはほとんど見当たりません。この原稿を書いている、というよりもそのキーボードをたたいているPCも、BGMを流しているiPodもすべてデジタル方式です。誤字を打ってもきれいに訂正できるし、それどころかPCが勝手に修正してくれます。このスリムで小さな箱の中には数百曲の私の好きな音楽が保存され、澄み切った音色が心を和ませてくれます。たまにはアナログ時代に戻ってと、万年筆で手紙を書いてみようとする、我ながらその悪筆ぶりに嫌気がさし、かえって相手に失礼にはならないかと躊躇してしまいます。また、学生時代に収集したLPレコードを懐かしく取り出し聞いてみると、かつては全く気にならなかった雑音がとても耳触りに思えます。いつしかデジタル文化から抜け出せなくなっているのかもしれない。

そして、今年1月にはiPadが発売され、その大流行とともに電子ブックが話題になっています。先日も飛行機の中でこれを利用している乗客を見かけました。しかし、着陸時にその使用をやめるようフライトアテンダントに注意を受けているのを見て、電子ブックも意外に不便なものだと何となく優越感を感じながら、黙々と手持ちの単行本を読み続けました。その時ふと疑問に感じたのが、電子ブックと従来の本を読む行為の違いです。何が違う。それは何か？その一つは本を読むことと見ることの違いかもしれません。デジタル化の最大の目的と長所は迅速かつ正確な情報伝達であり、情報を見ることにあります。したがって、電子ブックのデジタル文字は読むというよりつい見ってしまうような気がします。しかし、本を読むという行為は単に文字を見るのではなく、文字に託された意味や行間に秘められた新たな言葉を探ることであり、それが読書の喜びです。ちなみ速読術では、文字を読むのではなく文字を見てその内容を理解するそうです。でも、それでは読書の感動を味わうことはできないように思います。

デジタル化社会が与えてくれた利便性と引き換えに、情報を見ることにあまりに馴らされ、読む力、ひいては医療における診る力を失うことになりはしないかと気掛りです。そこで、そうならないようにと、先ほどあるジャーナルからメールで送られてきた査読論文を、資源の無駄使いと知りつつもわざわざ印刷し、赤鉛筆でなぞりながら読んでいます。そして、たった今、私の携帯に娘から送られてきた初孫の近況を綴った絵文字溢れるメールに呆れながらも顔をほころばせています。

## 診療報酬改定について思う。

同門会々長 山 本 誠

今年の総会にて会長を続けることになりました。今回は副会長を置く事も決まりましたので副会長と一緒に会を盛り上げ、会員の親睦の為に頑張りたいと思いますので御協力をよろしくお願い申し上げます。又、同門会役員の中に女医さんも加わってほしいと思います。

新年を迎えて今年は希望の持てる年で、民主党政権下の診療報酬改定では点数は引き上げられるだろうと思っていましたが、再診療の引き下げに留まらず、耳鼻科検査の主流をなす自覚的聴力検査が50点も大幅に引き下げられ、さらに鼻咽腔・喉頭のファイバースコピーも20点減となり、耳鼻科医にとって大打撃です。再診料の引き下げに気を取られている内に「医師不足が深刻な救急や産科、小児科、外科などの病院勤務医の待遇改善のため」という大義名分の元に開業医の点数が引き下げられた訳ですが、果してその分が勤務医の待遇改善に結び付くかは疑問です。さらに眼科、皮膚科、整形外科などの引き下げ幅に比べて耳鼻科の引き下げは大きく、改めて弱小科の悲哀を感じるのは私だけではないでしょう。そもそも外来管理加算は内科医の為につくられたもので、5分間問題で大きな関心呼び、改善された替りに耳鼻科点数の引き下げにつながったのではと勘繰りたくなります。今回の改定は耳鼻科開業医にとっては大幅な収入減となるし、ひいては耳鼻科医志望者のますますの減少になるのではと危惧しています。何はともあれ検査点数は引き下げられたのですから、我々の行うべき対策はもっと検査を増やすか、もしくは検査しても請求していなかったものを表に出していく事だと思います。それは私の7年間の国保審査員の経験から耳鼻科の先生方は生真面目で遠慮がちで検査が少ないと感じていたからです。

ところで私事ですが、昨年還暦を迎えて、これから先は自分の好きなように生きていこうと改めて思いました。現在は高校の同窓生で年4回のゴルフに、近所の同窓生数人で月1～2回のゴルフと会食を行い、ゴルフに関しては週に1～2回楽しんでます。私が元気なもこの為と思っていますので、会員の先生方も、自分の好きな事に邁進されたいかがでしょう。開業して24年になりますが、診療開始前は必ず今日も医療事故がないように念じていますし、日々その思いが強くなっています。我々の仕事はストレスの塊であり、今回の診療報酬のマイナス改定はさらにストレスを増すでしょう。それを発散させるには、飲食、談笑、スポーツなどが最適です。そのうえ開業医が安心して診療するには救急患者や重症患者を送れる後方支援病院が必要です。さらに診療所と病院の連携がうまくいくにはお互いの顔がよく判っている事が大事です。今年は久しぶ



りに同門会のゴルフコンペを行いました。開業医の先生方の参加が少なく、寂しい思いをしました。こういう機会に多くの先生方に参加していただき、医局の先生方の顔を覚えてほしいと思います。このような厳しい状況だからこそ、今後は同門会の懇親会を総会の外にもう1回増やしたらいかがでしょう。その年の還暦、古希、喜寿、米寿などの先生方にかこつけて皆で楽しく会食し、親睦を深めたいものです。

# I. 教室来訪者

(平成21年4月～平成22年3月)

7月 九州大学大学院医学部耳鼻咽喉科教授 小宗 静 男

7月 熊本大学大学院医学部耳鼻咽喉科教授 湯本 英 二

7月 島根大学医学部耳鼻咽喉科教授 川内 秀 之

### 1. 共催の講演会

1. 第62回鹿児島県耳鼻咽喉科学術集会 平成21年4月23日  
 特別講演：「喉頭機能外科」  
 防衛医科大学校 耳鼻咽喉科学 教授 塩谷 彰浩 先生  
 一般演題：「耳下腺ワルチン腫瘍と炎症」  
 谷本 洋一郎 先生（あまたつクリニック）  
 「眼窩内腫瘍と耳鼻咽喉科」  
 川島 雅樹 先生（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）
  
2. 第34回日耳鼻鹿児島県地方部会総会ならびに学術集会 平成21年6月20日  
 特別講演：「喉頭癌の増殖動態と臨床への展開」  
 久留米大学医学部 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 教授 中島 格 先生  
 一般演題：「腎臓機能障害透析患者における副鼻腔真菌症」  
 馬越 瑞夫，田中紀充（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）  
 「耳鼻咽喉科領域におけるアミロイドーシス」  
 早水 佳子，朝隈真一郎  
 （鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科，朝隈耳鼻咽喉科）  
 「多発脳神経障害を伴った Hunt 症候群の一例」  
 高木 実，直野 秀和，笠野 藤彦，花牟礼 豊  
 （鹿児島市立病院 耳鼻いんこう科）  
 「小児滲出性中耳炎の病態と血管内皮細胞増殖因子（VEGF）」  
 積山 幸祐（鹿児島生協病院 耳鼻咽喉科）  
 「当院における基準嗅力検査の検討」  
 江川 雅彦（江川耳鼻咽喉科）  
 「萎縮性声帯炎に対する補中益気湯の使用経験」  
 内菌 明裕（せんだい耳鼻咽喉科）
  
3. 第63回鹿児島県耳鼻咽喉科学術集会 平成21年8月27日  
 特別講演：「小児上気道感染症における原因菌とその耐性化状況  
 ー培養と迅速診断の成績からー」  
 北里大学・北里生命科学研究所 教授 生方 公子 先生

一般演題：「急性喉頭蓋炎の治療におけるピットフォール」

吉福 孝介 先生（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）

「頸部膿瘍症例における重症度と SIRS 診断について」

林 多聞 先生（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）

4. 第64回鹿児島県耳鼻咽喉科学術集会 平成21年9月17日

特別講演：「内耳疾患の基礎研究と聴神経腫瘍の臨床」

筑波大学大学院 人間総合科学研究科 教授 原 晃 先生

一般演題：「中耳炎病態と GERD に関する文献的考察」

林 多聞 先生（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）

「内耳形態異常と感音難聴 - cochlear nerve deficiency を中心に -」

宮之原 郁代 先生（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）

5. 第65回鹿児島県耳鼻咽喉科学術集会 平成21年10月22日

特別講演：「咽喉頭逆流症 (laryngopharyngeal reflux) - 最近の話題 -」

北海道大学大学院医学研究科

耳鼻咽喉科・頭頸部外科 教授 折館 伸彦 先生

一般演題：「特発性縦隔気腫の診断と治療」

積山 幸祐 先生（鹿児島生協病院耳鼻咽喉科）

「耳鼻咽喉科診療における GERD と LPRD」

林 多聞 先生（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）

6. 第11回上気道アレルギー疾患を考える会 平成21年11月19日

特別講演：「アレルギー性鼻炎と嗅覚障害」

金沢医科大学

感覚機能病態学（耳鼻咽喉科）教授 三輪 高喜 先生

ミニパネルディスカッション：

「XPS ドリルシステムによる下鼻甲介粘膜下組織減量術の経験」

田中 紀充 先生（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）

「後鼻神経切除術について」

松根 彰志 先生（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）

「CO<sub>2</sub> 粘膜焼灼術のコツと限界」

上野 員義 先生 うへの耳鼻咽喉科クリニック 院長

7. 第66回鹿児島県耳鼻咽喉科学術集会 平成21年12月17日  
特別講演：「老人性難聴の発症機序」  
東京大学大学院医学系研究科  
耳鼻咽喉科学分野 教授 山唄達也 先生  
一般演題：「Le Fort 骨折の診断と治療」  
大堀 純一郎 先生（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）  
「『鼻づまりチェックシート』と鼻炎標準 QOL 調査票（JRQLQ）」  
松根 彰志 先生（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）
8. 第18回鹿児島アレルギー懇話会 平成22年2月4日  
特別講演1：「アレルギー性鼻炎・花粉症に対する代替医療の位置づけ」  
松根 彰志 先生（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）  
特別講演2：「成人喘息治療の新展開－喘息死ゼロをめざして－」  
土橋 邦生 先生（群馬大学医学部 保健学科 教授）
9. 第67回鹿児島県耳鼻咽喉科学術集会 平成22年2月25日  
特別講演1：「抗ヒスタミン薬はなぜ効くか」  
徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部  
資源分子探索学講座 分子薬物学 教授 福井 裕行 先生  
特別講演2：「花粉症患者はどのような治療を望んでいるか？」  
大阪大学大学院医学系研究科  
保健学科専攻 教授 荻野 敏 先生
10. 第68回鹿児島県耳鼻咽喉科学術集会 平成22年3月11日  
特別講演：「人工聴覚器医療の現況」  
宮崎大学医学部  
耳鼻咽喉・頭頸部外科学 教授 東野 哲也 先生  
一般演題：「乳幼児急性中耳炎に続発する顔面神経麻痺について  
－起炎菌と免疫能の観点から－  
田中 紀充 先生（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）  
「鼻出血症例の問題点とその対応について」  
林 多聞 先生（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）

## 2. 第12回 耳鼻咽喉科桜島フォーラム

今回のさくらじまフォーラムは、平成21年12月10日、鹿児島市サンロイヤルホテルで開催された。当科および当科の関連施設からの、症例検討会を行った。関連施設との合同でのカンファランスのような雰囲気の中で、各症例に対する活発な意見が交わされた。

今回は、宮崎大学耳鼻咽喉科から鹿児島市立病院に出向している後藤隆史先生には、宮崎医科大学での、真珠腫にたいするCT画像評価について発表していただいた。耳科学に専門的に触れる機会の少ない当科としては、学会とは違った雰囲気、耳科学のトピックスに触れることができるよい機会であった。(文責：大堀純一郎)

## 3. 第9回 「鼻の日」市民講座

8月7日の「ハナ(鼻)の日」(日本耳鼻咽喉科学会)にちなんで、「第9回 鼻の日市民講座」が以下の内容で行なわれた。

|     |                                                                 |
|-----|-----------------------------------------------------------------|
| 日 時 | 平成21年8月8日(土) 午後1時30分～午後3時                                       |
| 場 所 | 鹿児島市 天文館 アイムビル 4階 ホール                                           |
| 参加費 | 無料                                                              |
| 共 催 | 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 耳鼻咽喉科頭頸部外科学<br>および 同 同門会<br>日本耳鼻咽喉科学会 鹿児島県地方部会 |

内容は講演が3本で、それぞれ20分間の講演と10分間の質疑応答の時間を設けた。当日の一般市民の参加者は、52名で皆さん熱心にメモをとりつつ聴講された。こうした取り組みは大変地味であるが、一般市民の皆さんのニーズを考慮しテーマに反映させながら継続していきたい。

司 会 鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科 林 多聞 先生

①「たかが鼻炎・されど鼻炎」 鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科 教授 黒野祐一 先生

②鼻の病気といびき・睡眠時無呼吸症候群

鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科 牧瀬高穂 先生

③鼻の病気と気管支喘息

鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科 吉福孝介 先生

(文責 松根)

「鼻の日」アンケート

(平成21年8月8日)

参加者 74名 アンケート回収数 73枚

1. どのようにして、今回の講座を知りましたか。

新聞 (64) ポスター (3) ラジオ (3) 《MBC (1)》  
 ティータイム (1) 友人・知人 (4)

2. 講演内容はいかがでしたか。

わかりやすかった (49) ややわかりにくい (20)  
 難しすぎる (2) 無回答 (1)

3. 講演時間、日程についてお願いします。

講演時間：長い (0) ちょうど良い (60) 短い (7) 無回答 (6)  
 日 程：土曜午前 (3) 土曜午後 (63) 日曜午後 (8) 無回答 (1)

4. 今後「鼻の日」にあわせて、取り上げて欲しい企画・テーマ

- もっと身近な「耳垢は取った方がいいのか？とか とらない方がいいということもききますが。」
- アレルギー性鼻炎の自己管理
- 耳鼻科の進歩の程度が知りたい
- 副鼻腔炎
- 嗅覚回復度
- 無呼吸治療の進歩・可能性
- 気管支喘息についてもっと専門的な講座があればなお良い
- 頭頸部全体として取り上げて欲しい
- においのテーマで興味深い話はないですか？
- 睡眠時無呼吸症候群の講座希望したい
- 咽喉の講座もして欲しい。

(感想)

- 鼻血の止め方理解して覚えました。

- また参加したいです。
- 同じテーマでもいいからもう一度ききたい
- 時々はいろんな鼻と耳についての講義していただきたいが、先生方は本当に忙しいので無理だとは思っていますが
- この様な講座がある事を初めて知った。広告をしっかりと出して頂きたい。

お年寄りの方も参加者にはたくさんおられたので、わかりやすくするために下記のような配慮も必要でしょう。

- もう少しゆっくりしゃべって欲しい
- もっと参考資料が欲しい
- 説明壇上をもう少し明るくしてください
- 模型を使ってもう少しゆっくり説明して下さい。



#### 4. 第3回耳の日ならびにアレルギー週間公開講座

日時：平成22年2月28日(日) 13時30分～14時40分

場所：鹿児島よかセンター

耳の日市民公開講座とアレルギー週間公開講座の同時開催も今回で3回目を迎えました。とくに耳の日市民公開講座については、2005年に開催した50周年記念公開講座以降、毎年定例で開催し、今年6回目を迎えることができました。プログラムは以下の通り、第一部に難聴、補聴器の選び方、めまい、耳鳴りについて、第二部に睡眠時無呼吸やアレルギー性鼻炎、花粉症など鼻の病気についての講演と2部構成で行いました。また、高齢者や難聴の方の参加を見込み、(中)日本補聴器販売店協会のご協力で、会場には赤外線補聴システムを準備しました。

##### 内容)

##### 第Ⅰ部—耳の健康を考える—

1. 耳のしくみと難聴・補聴器
2. やさしいめまいと耳鳴りの話

##### 第Ⅱ部—睡眠時無呼吸症候群とアレルギー性鼻炎—

1. 鼻づまりと睡眠時無呼吸症候群
2. アレルギー性鼻炎の最新治療と今からできる花粉症対策

##### アンケート結果)

今回の企画についての評価目的にアンケートを行いましたので結果をご報告いたします。参加人数は39名で、アンケート回収率は、89.7% (35名) で、うち男性10名、女性22名 (未記入3名) でした。年齢構成は50-70代が77.1%を占めました。

##### 1) 今回の講座についてどのようにして知りましたか？

|                              |     |
|------------------------------|-----|
| 新聞                           | 51% |
| 無料生活情報誌                      | 11% |
| ポスター                         | 6%  |
| その他 (病院ですすめられて、インターネットでみてなど) | 34% |

##### 2) 講演内容はいかがでしたか？

|          |     |
|----------|-----|
| わかりやすい   | 54% |
| ややわかりにくい | 26% |
| むずかしい    | 3%  |

- |                        |     |
|------------------------|-----|
| 聞こえなかった                | 3%  |
| 無回答                    | 14% |
| 3) 講演時間はいかがでしたか？       |     |
| ちょうどよい                 | 71% |
| 短い                     | 14% |
| 長い                     | 0%  |
| 無回答                    | 14% |
| 4) 講演日程はいかがでしたか？       |     |
| 土曜日午後がよい               | 29% |
| 日曜日午後でよい               | 63% |
| 平日夜がよい                 | 0%  |
| いつでも良い                 | 3%  |
| 無回答                    | 9%  |
| 5) これまでに参加されたことがありますか？ |     |
| はい                     | 20% |
| いいえ                    | 80% |
| 6) その他                 |     |

今後取り上げてほしいテーマとして、耳鳴りの話・アトピーについて・耳や鼻の一般的な話・声についての話題などがあげられました。

意見・要望としては、時間をもっとかけて説明して欲しい、早口でわかりにくかったなどがあげられました。

アンケートから伺えるニーズとしては、「全体の時間はあまり変えず、しかし説明はもっと詳しくして欲しい」ということかと思われまます。したがって、講演内容を2つぐらいに減らしてゆっくり講演するといった工夫が必要かと思われまました。また、どの講演を目的に参加頂けたかについても、次回はアンケートをとって分析していきたいと思ひます。今後も社会に広くアピールできるような企画を、耳の日市民公開講座およびアレルギー週間公開講座として開催していきたいと思ひます。最後になりましたが、ご協力いただきました多くの皆さまにこの場をかりて厚くお礼申し上げます。

(文責：宮之原郁代)

## 5. 水曜セミナー (2009年4月～12月)

|                                                                                     |       |
|-------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| 4月                                                                                  |       |
| 喘息合併慢性副鼻腔炎例とカンジダに関する臨床検査                                                            | 松根 彰志 |
| ブロー液の使用経験                                                                           | 谷本洋一郎 |
| 肺炎球菌・インフルエンザ菌の上皮接着                                                                  | 川島 雅樹 |
| 5月                                                                                  |       |
| 好酸球性副鼻腔炎の診断基準<br>—病理組織学的検討からの観点—                                                    | 吉福 孝介 |
| 6月                                                                                  |       |
| 鼻過敏性亢進とヒスタミン H1受容体                                                                  | 牧瀬 高穂 |
| 当科における扁桃の動向                                                                         | 原田みずえ |
| 急性中耳炎に続発する顔面神経麻痺                                                                    | 田中 紀充 |
| 7月                                                                                  |       |
| 小児睡眠時無呼吸症候群                                                                         | 牧瀬 高穂 |
| 腎臓機能障害透析患者における副鼻腔真菌症<br>～新しい展望への試案～                                                 | 馬越 瑞夫 |
| 耳鼻咽喉科疾患における LPRD の関与について                                                            | 林 多聞  |
| 8月                                                                                  |       |
| 感音難聴の画像診断<br>—内耳奇形と labyrinthitis ossificans—<br>とくに Cochlear nerve deficiency を中心に | 宮之原郁代 |
| 透析患者における副鼻腔陰影の考察<br>～アンケート結果をふまえて～                                                  | 馬越 瑞夫 |
| 喘息を合併する副鼻腔炎(ATA/AIA)のRAST, RIST, 即時型皮内反応                                            | 松根 彰志 |
| 9月                                                                                  |       |
| 咽頭痛を主訴とした成人 Still 病                                                                 | 川島 雅樹 |
| Phosphorylcholine Suppressed the Allergic Rhinitis in Mice                          | 宮下 圭一 |
| 上顎洞悪性リンパ腫                                                                           | 谷本洋一郎 |
| 10月                                                                                 |       |
| 頸部郭清術と Q O L                                                                        | 大堀純一郎 |
| 急性喉頭蓋炎について (第一報)                                                                    | 吉福 孝介 |
| 鼻過敏症とヒスタミン H1受容体                                                                    | 牧瀬 高穂 |

|                                            |       |
|--------------------------------------------|-------|
| 11月                                        |       |
| 鼻前庭癌                                       | 原田みづえ |
| 睡眠時無呼吸症候群患者における経鼻的持続陽圧呼吸療法継続の問題点           | 田中 紀充 |
| 扁桃周囲膿瘍 CT 画像の検討                            | 馬越 瑞夫 |
| 12月                                        |       |
| 経皮免疫                                       | 牧瀬 高穂 |
| アレルギー性鼻炎におけるヒト下鼻甲介粘膜構築細胞と VEGF             | 松根 彰志 |
| 好酸球性副鼻腔炎再発機序の解明と、その予防法の確立                  | 吉福 孝介 |
| 舌下免疫                                       | 早水 佳子 |
| 難治性副鼻腔炎における好酸球の役割と浸潤機序の解明<br>—新たな治療法を目指して— | 大堀純一郎 |

平成22年1月16日、城山観光ホテルにて、同門会役員会、同門会総会、ならびに同門会と地方部会合同での学術講演会が開催された。以下のごとくのスケジュール、内容で開催された。

役員会、総会の出席状況は以下のごとくであった。

|     |    |      |    |     |     |        |
|-----|----|------|----|-----|-----|--------|
| 役員会 | 総数 | 18名  | 出席 | 12名 |     | 成立     |
| 総会  | 総数 | 113名 | 出席 | 46名 | 委任状 | 38名 成立 |

役員会、総会での報告、審議等の内容については、「議事録」にまとめられ、既に会員に配布されているのでここでは詳細は割愛する。事業報告や計画、決算と予算関係以外の重要事項として、任期切れの山本 誠同門会長の再任が承認され、同門会長および役員会の選出に関する規約の改正が承認された。

|        |            |          |
|--------|------------|----------|
| 16時15分 | 同門会役員会     | (クイーンの間) |
| 17時15分 | 同門会総会      | (天平の間)   |
|        | 同門会        | 記念撮影     |
| 18時    | 同門会・地方部会合同 | 学術講演会    |

### 一般演題 (18:00~19:00)

座長 松根 彰志 (鹿児島大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科)

1. 扁桃周囲膿瘍の膿瘍形成様式とCT画像

馬越瑞夫 他 (鹿児島大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科)

2. アレルギー性鼻炎の病態と鼻粘膜H1受容体

牧瀬高穂 他 (鹿児島大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科)

3. 喉頭ヒアリノーシス(hyalinosis)

早水佳子 他 (鹿児島大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科)

座長 花牟礼 豊 (鹿児島市立病院 耳鼻いんこう科)

4. 側頭部に発生したMFHの治療経験

西元謙吾, 他 (鹿児島医療センター 耳鼻咽喉科)

5. 当院におけるムコイド型肺炎球菌性急性中耳炎の検討

内菌明裕 (せんだい耳鼻咽喉科)

特別講演 (19:00～20:00)

座長 黒野祐一 (鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科 教授)

「アブミ骨固着症に対する手術」

九州大学大学院医学研究院 耳鼻咽喉科 教授

小宗 静男 先生

学術講演会終了後、新年会を兼ねた同門会と地方部会の合同の懇親会が例年のごとく、開催された。

(文責 松根)



鹿児島大学大学院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室同門会 平成22年1月16日 於：城山観光ホテル

### 1. 学校保健（統計報告）

平成21年4月から6月にかけて、当科において鹿児島県下の以下の耳鼻咽喉科学校検診を行った。

**【対象地域】**

鹿児島市，阿久根市，垂水市，西之表市，松山町（志布志市），財部町（曾於市），輝北町（鹿屋市），大崎町

**【受診者数】**

小学生4,622名，中学生2,634名

**【対象疾患】**

耳垢栓塞，浸出性中耳炎，慢性中耳炎，鼻中隔彎曲症，鼻アレルギー，慢性鼻炎，慢性副鼻腔炎，扁桃肥大 の 9 疾患

**【結果】**

疾患別の有病率については、ここ数年の傾向どおり、鼻アレルギーが圧倒的に多く1割弱であった。ついで耳垢栓塞，慢性副鼻腔炎の順であった（図1）。耳疾患は学年とともに有病率は減少傾向であった（図2）。鼻疾患では、鼻アレルギーはどの学年でも1割弱の有病率であった（図3）。扁桃疾患は学年とともに減少傾向であった（図4）。

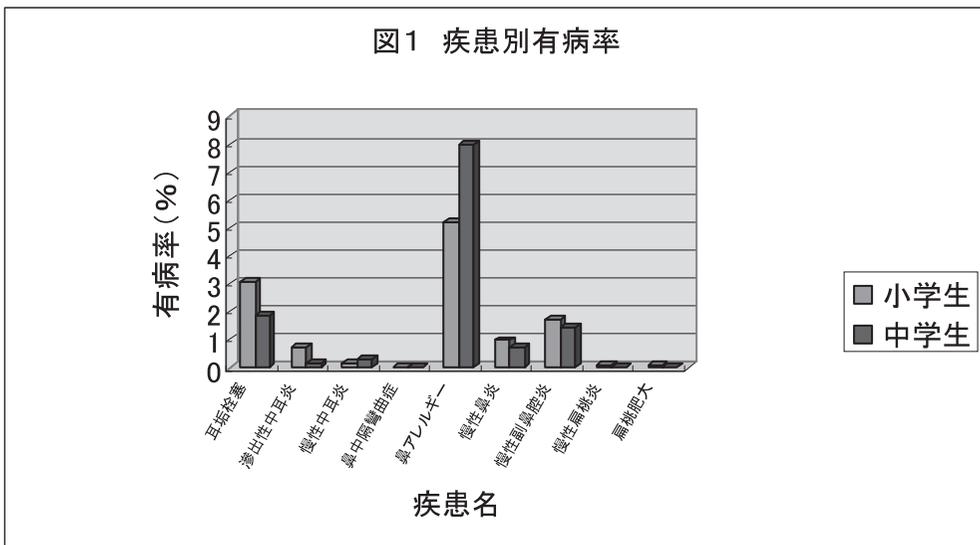


図2 学年別耳疾患有病率

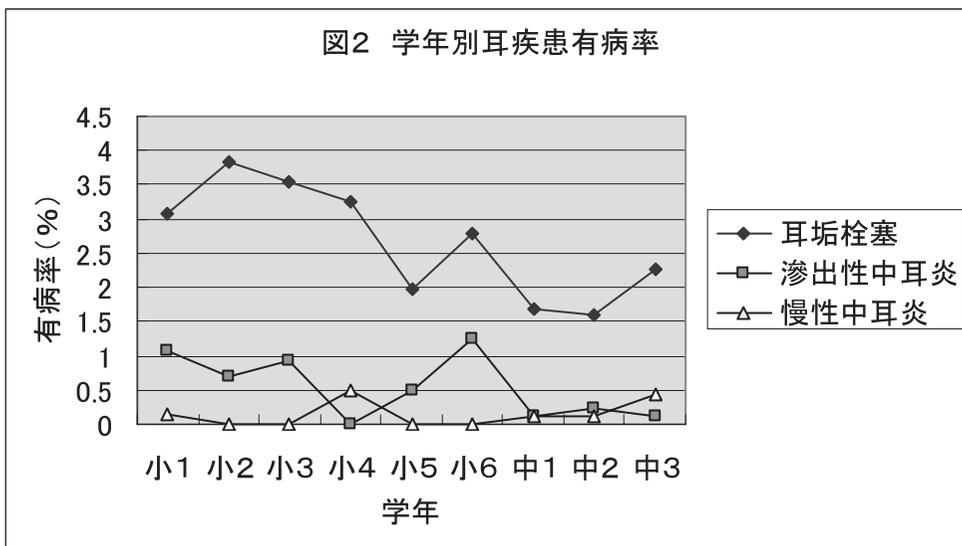
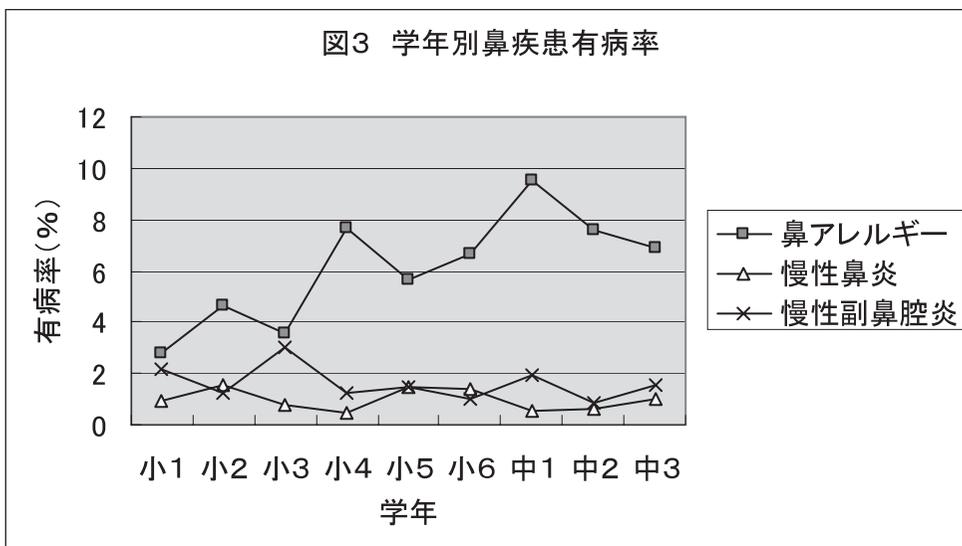
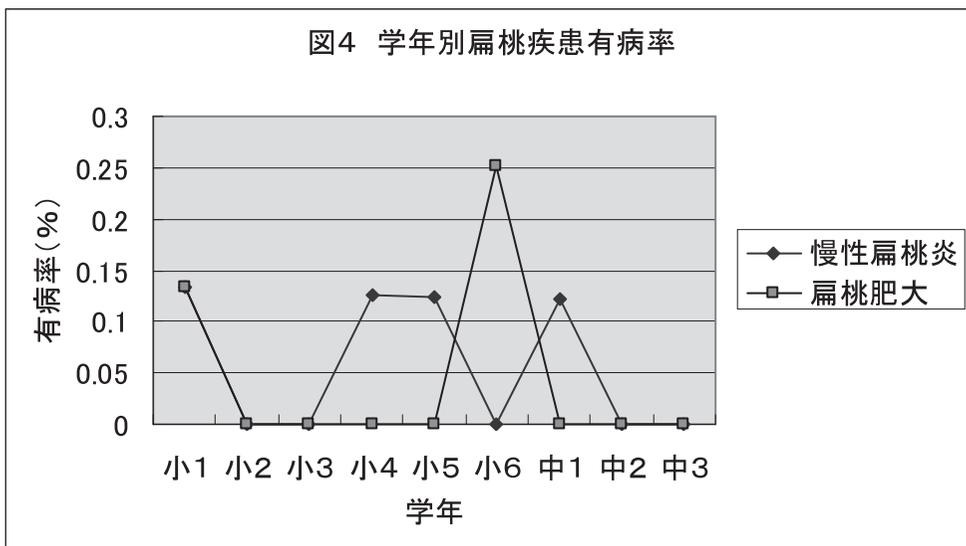


図3 学年別鼻疾患有病率





## 1. アレルギー外来

アレルギー外来は、毎週月曜日の午後2時～4時まで特殊外来として行っている。

診断から治療、定期外来通院までを一連の流れで行っております。近年、情報化社会の影響もあり、アレルギー外来を受診されるスギ花粉症患者さんの飛散開始前治療も周知されつつあります。このように患者さんの要望を満たすべく的確な診断をするのとともにスギ花粉症患者さんの初期治療、導入療法、維持療法を、しっかりと系統だてて治療管理を行っています。今後も患者さんの症状の緩和に貢献すべく、特殊外来としてアレルギー外来をさせて頂こうと考えております。

(文責：吉福 孝介)

## 2. 副鼻腔炎外来 since 1994

毎週（木）の午前中に、内視鏡下鼻内副鼻腔手術、特に難治性といわれる好酸球性副鼻腔炎の（術後）治療と経過観察を中心に行なっている。

この1年の活動の特徴の第1は、「気道粘膜における好酸球性炎症を考える会」(SGEIRT; Study Group on Eosinophilic Inflammation in Respiratory Tract) の活動と連動した部分が多かったということである。上会合は第1回が平成20年12月6日に横浜で開催された。Active Member は、川内秀之先生（島根大学）、石戸谷淳一先生（横浜市大医療センター）、岡野光博先生（岡山大学）、太田伸男先生（山形大学）、増田佐和子先生（国立三重病院）、堀口茂俊先生（千葉大学）と私である。

好酸球性副鼻腔炎の臨床研究をはじめ、これに限らず Active Member の持ち寄るテーマを中心に活発な議論を重ねている。

好酸球副鼻腔炎については、その定義というのが常に問題になる。本会の活動を通じて「定義」、「診断基準」の問題にも提案、発言を積極的に行なえたらと考える。とはいえ、症例の1例、1例の積み重ねとそれらの解析がなされなければこうした議論も成り立たない。そこで、各施設で副鼻腔炎の手術症例すべてを対象とした、統一のケースカードを作成することとした。平成22年4月の会合では、ケースカードの試作版にエントリーされた症例が持ち寄られ、改善すべき点が話し合われ、いわゆる「UMIN 登録」や各大学、施設での臨床研究倫理委員会での承認を得ることとした。

今後、こうした検討にも耐えうるような質と内容の診療を、好酸球性副鼻腔炎を含む副鼻腔炎の各手術症例を対象に行っていきたい。

(文責 松根)

### 3. 難聴・耳鳴り外来

難聴・耳鳴り外来

金曜日（午後）（月3回）

補聴器外来

毎週月（終日）・水（午前）

難聴・耳鳴り外来は、2003年4月に開設以来、丸6年を迎えました。当外来では、主に Jastreboff によってはじめられた指向性カウンセリングと音治療を組み合わせた耳鳴り治療法 TRT (Tinnitus Retraining therapy) を中心に行っています。2009年1～12月の新規患者数は、15名、再診患者は12名で、延べ48名でした。補聴器外来では、補聴器フィッティングから聴覚障害についての管理指導・患者啓蒙を行っています。2009年1～12月の新規患者数は、34名、再診患者は5名で延べ73名でした。それぞれ治療効果など様々な臨床データを積み重ねていきたいと思っておりますが、いずれの外来もマンパワーが年々減少して維持していくのが精一杯といったところです。

（文責：宮之原郁代）

## VI. 病理集計

|                 |     |
|-----------------|-----|
| 2009.3月～2010.4月 | 件数  |
| 入院              | 372 |
| 外来              | 336 |
| 総施行件数           | 708 |

### 腫瘍疾患

|         | 悪性                              | 件   | 良性                    | 件  |
|---------|---------------------------------|-----|-----------------------|----|
| 喉頭腫瘍    | SCC                             | 39  | squamous papilloma    | 1  |
|         | SCC in situ                     | 1   | papilloma             | 1  |
|         | adenosquamous carcinoma         | 1   |                       |    |
| 甲状腺腫瘍   | papillary carcinoma             | 9   | follicular adenoma    | 10 |
|         | follicular carcinoma            | 1   | adenomatous goiter    | 1  |
| 上咽頭腫瘍   | SCC                             | 2   | immature teratoma     | 1  |
|         | lymphoepithelial carcinoma      | 1   |                       |    |
|         | undifferentiated carcinoma      | 1   |                       |    |
|         | malignant lymphoma(non-Hodgkin) | 3   |                       |    |
|         | 不明                              | 3   |                       |    |
| 中咽頭腫瘍   | SCC                             | 21  | squamous papilloma    | 5  |
|         | malignant lymphoma(non-Hodgkin) | 8   |                       |    |
| 下咽頭腫瘍   | SCC                             | 31  | hemangioma            | 1  |
|         |                                 |     | capillary hemangioma  | 1  |
| 舌腫瘍     | SCC                             | 19  | hemangioma            | 2  |
|         | 不明                              | 1   | granuloma             | 2  |
| 硬口蓋腫瘍   | basal cell carcinoma            | 3   | myoepithelioma        | 2  |
|         |                                 |     | squamous papilloma    | 1  |
| 口腔底腫瘍   | SCC                             | 2   |                       |    |
|         | myoepithelial carcinoma         | 2   |                       |    |
| 頬粘膜腫瘍   | SCC                             | 1   |                       |    |
| 上顎腫瘍    | SCC                             | 11  |                       |    |
| 蝶形骨洞腫瘍  | malignant melanoma              | 1   |                       |    |
| 鼻腔腫瘍    | SCC                             | 1   | inverted papilloma    | 5  |
|         | pleomorphic sarcoma             | 1   | angiofibroma          | 2  |
|         | malignant melanoma              | 1   | squamous papilloma    | 1  |
|         | malignant lymphoma(non-Hodgkin) | 5   | hemangioma            | 1  |
|         | 不明                              | 1   | carvenous hemangioma  | 1  |
|         |                                 |     | capillary hemangioma  | 1  |
| 耳下腺腫瘍   | mucoepidermoid carcinoma        | 4   | pleomorphic adenoma   | 15 |
|         | malignant lymphoma(non-Hodgkin) | 2   | Warthin tumor         | 10 |
|         |                                 |     | basal cell adenoma    | 2  |
|         |                                 |     | lymphoepithelial cyst | 2  |
|         |                                 |     | schwanoma             | 2  |
|         |                                 |     | myoepithelioma        | 1  |
| 顎下腺腫瘍   | SCC                             | 1   | lymphangioma          | 1  |
|         | 不明                              | 1   |                       |    |
| 頸部腫瘍    | spindle cell sarcoma            | 2   | pilomatricoma         | 1  |
|         | malignant fibrous histiocytoma  | 1   | lipoma                | 1  |
| 頸動脈小体腫瘍 |                                 |     | paraganglioma         | 1  |
| 外耳腫瘍    | SCC                             | 1   | adenoma               | 1  |
| 副咽頭間隙腫瘍 |                                 |     | pleomorphic adenoma   | 2  |
| 皮膚腫瘍    |                                 |     | pilomatricoma         | 1  |
| 頸部リンパ節  | SCC(原発不明3、上咽頭1、中咽頭1)            | 5   |                       |    |
|         | malignant lymphoma(non-Hodgkin) | 5   |                       |    |
| 合計      |                                 | 192 |                       | 79 |

(平成22年3月現在)

## 文部科学省科学研究費

## 基盤研究(B) (2)

舌下免疫 - 粘膜ワクチンの新たな投与経路としての有用性に関する研究

研究代表者 黒野祐一

分 担 者 松根彰志 吉福孝介 田中紀充 大堀純一郎

## 若手研究(B)

鼻アレルギーマウスモデルを用いた粘膜免疫の検討

研究代表者 田中紀充

## 厚生労働省科学研究費補助金

## 代替医療の実施と有効性の科学的評価

主任研究者 岡元美孝 (千葉大学 耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学)

研究分担者 黒野祐一

研究協力者 松根彰志

## 1. 原 著

- (1) S.Matsune, J.Ohori, K.Yoshifuku, Y.Kurono  
Effect of Vascular Endothelial Growth Factor on Nasal Vascular Permeability.  
Laryngoscope 120:844-848, 2009
- (2) 都築建三, 松根彰志, 黒野祐一 他11名  
簡易な嗅覚評価のための「日常のにおいアンケート」  
日本鼻科学会誌 48(1):1-7, 2009
- (3) T.Sekigawa, A.Tajima, T.Hasegawa, Y.Hasegawa, H.Inoue, Y.Sano, S.Matsune, Y.Kurono  
and I.Inoue  
Gene-expression profiles in human nasal polyp tissues and identification of genetic  
susceptibility in aspirin-intolerant asthma  
Clinical & Experimental allergy 39:972-981, 2009
- (4) M.Sakagami, M.Ikeda, H.Tomita, A.Ikui, T.Aiba, N.Takeda, A.Inokuchi, Y.Kurono  
M.Nakashima, Y.Shibasaki, O.Yotsuya  
A zinc-containing compound, Polaptrezinc, is effective for patients with taste disorders:  
randomized, double-blind, placebo-controlled, multi-center study  
Acta Oto-laryngologica 129:1115-1120, 2009
- (5) 谷本洋一郎, 松根彰志, 黒野祐一  
鼻性視神経炎との鑑別を要した Miller Fisher 症候群の1例  
耳鼻と臨床 55(6):257-263, 2009
- (6) 西元謙吾, 林 多聞, 早水佳子, 黒野祐一  
口蓋扁桃摘出術後の疼痛に対する含操嗽療法の試み  
—アズレンスルホン酸ナトリウムとボピオンヨードとの比較—  
耳鼻臨床 102(11):945-949, 2009

- (7) 黒野祐一  
アレルギー性鼻炎—第6版改訂のポイント—  
アレルギー 58(11):1484-1489, 2009
- (8) 川畠雅樹, 大堀純一郎, 黒野祐一  
「初診時に鼻腔内異物を疑われた小児逆生歯の2例」(鼻腔内逆生歯)  
小児耳鼻咽喉科: 30(3):299(113)-303(117), 2009
- (9) Mika Habu, Masaki Niiro, Mitsuo Toyoshima, Yoshifumi Kawano, **Shoji Matsune** and  
Kazunori Arita  
「Transethmoidal Meningoencephalocele Involving the Olfactory Bulb With Enlarged  
Foramina of the Lamina Cribrosa -Case Report-」  
Neurol Med Chir (Tokyo)49:269-272, 2009
- (10) 吉福孝介, 福岩達哉, 林 多聞, 大堀純一郎, 田中紀充, 黒野祐一  
「頸椎前方固定術18年後に発症した食道穿孔例」  
耳鼻臨床: 102(5):389-393, 2009
- (11) 吉福孝介, 馬越瑞夫, 黒野祐一  
「耳介血腫に対する持続陰圧ドレナージ法の効果」  
耳鼻臨床: 102(3):197-200, 2009
- (12) 吉福孝介, 宮下圭一, 黒野祐一  
「頸動脈合併切除を要した頸動脈小体腫瘍例」  
耳鼻臨床: 102(9):767-772, 2009
- (13) 吉福孝介, 宮下圭一, 黒野祐一  
「急性喉頭蓋炎84症例の臨床的検討」  
日本耳鼻咽喉科感染症研究会会誌 27(1):165-170, 2009
- (14) 吉福孝介, 永野広海, 黒野祐一  
「術前血管塞栓療法が有効であった鼻腔血管腫の2症例」  
耳鼻咽喉科展望: 52(1): 34-42, 2009

- (15) 吉福孝介, 松根彰志, 馬越瑞夫, 黒野祐一  
「口腔内排膿誘導を試みた頬部膿瘍の1例」  
耳鼻と臨床: 56(1):24-28, 2010

## 2. 総 説

- (1) 松根彰志  
副鼻腔炎の難治化 アレルギーや好酸球との関係から  
日本鼻科学会会誌 48(1): 33-36, 2009
- (2) 黒野祐一  
特集: ここが知りたい アレルギー性鼻炎Q & A  
治療 アレルギー性鼻炎の薬物療法において投与終了時期はどのように判断すればよいのか教えてください JOHNS 25(3):390-392, 2009
- (3) 松根彰志  
特集: ここが知りたい アレルギー性鼻炎Q & A  
合併症 アレルギー性鼻炎と副鼻腔炎との関連について教えてください  
JOHNS 25(3):451-453, 2009
- (4) 黒野祐一  
「上気道一下気道一連関」  
呼吸28(6):579-584, 2009
- (5) 黒野祐一  
特集 耳鼻咽喉科と副腎皮質ステロイドーエビデンスを探るー  
「副腎皮質ステロイド治療の臨床 扁桃疾患」  
JOHNS 25(7): 1004-1006, 2009
- (6) 黒野祐一  
特集 耳鼻咽喉科のアレルギーの治療薬 update  
「鼻・副鼻腔のアレルギー疾患と治療薬の使用法」  
MB ENT 104: 6-11, 2009

- (7) 黒野祐一  
特集 深頸部感染症—難治例への的確な対応  
「深頸部感染症における合併症への対応」－筋壊死・筋膜壊死－  
JOHNS 25(11)：1681-1684, 2009
- (8) 黒野祐一  
「小児期における扁桃の役割と扁桃摘出術の適応」  
小児耳鼻咽喉科：30(3):196(10)-199(13), 2009
- (9) 松根彰志  
鼻閉，鼻漏－それぞれに対する抗アレルギー薬の使い方  
Info Allergy 49:4, 2009
- (10) 松根彰志  
副鼻腔炎(上顎洞)穿刺 耳鼻咽喉科外来診療－私の工夫－  
ENTONI(増刊号):113:59-62, 2009
- (11) 川畠雅樹，大堀純一郎，黒野祐一  
「初診時に鼻腔内異物を疑われた小児逆生歯の2例」(鼻腔内逆生歯)  
小児耳鼻咽喉科：30(3):299(113)-303(117), 2009
- (12) 黒野祐一  
特集：炎症性耳鼻科疾患の病態と診断・治療  
「急性中耳炎」  
医学と薬学：62(6)951-956, 2009
- (13) 黒野祐一  
特集：診療ガイドライン・診療の手引き概要  
3. 副鼻腔炎  
耳鼻咽喉科・頭頸部外科82(3)：205-212, 2010

### 3. その他

#### (1) 早水佳子

紙上診察室 耳鳴り 南日本新聞, 平成21年12月8日

### 4. 国内学会発表

#### (1) 特別講演

熊本大学医学部臨床講義 平成21年4月8日 (熊本市)

「上気道疾患と粘膜免疫」

黒野祐一

九州大学医学部臨床講義 平成21年4月9日 (福岡市)

「上気道の免疫・アレルギー疾患」

黒野祐一

青森市耳鼻咽喉科医会 平成21年5月19日 (青森市)

「急性上気道感染症の診断における留意点」

黒野祐一

鹿児島GERD研究会第4回学術講演会 平成21年7月7日 (鹿児島市)

「耳鼻咽喉科疾患におけるGERD, LPRDの関与について」

林 多聞

学術講演会 平成21年7月16日 (津市)

「好酸球性副鼻腔炎の病態と治療」

松根彰志

第83回日本耳鼻咽喉科学会島根県地方部会学術講演会 平成21年8月29日 (松江市)

「アレルギー性鼻炎 花粉症の薬物療法」

－ガイドライン2009年版を踏まえて－

黒野祐一

大阪耳鼻咽喉科サマーセミナー 平成21年9月10日 (大阪市)

「急性上気道感染症の診療における留意点

－ニューキノロン系抗菌薬の位置づけ－」

黒野祐一

第32回沖縄耳鼻咽喉科懇話会 平成21年9月16日 (那覇市)

「急性上気道感染症に対するニューキノロン系抗菌薬の位置づけ」

黒野祐一

函館耳鼻科会 平成21年9月25日 (函館市)

「急性上気道感染症の診療における留意点

－ニューキノロン系抗菌薬の位置づけ－」

黒野祐一

実践薬学セミナー 平成21年9月27日 (鹿児島市)

「アレルギー性鼻炎・花粉症の薬物治療」

松根彰志

学術講演会 ～レスピラトリーキノロンを考える～ 平成21年10月3日 (神戸市)

「急性上気道感染症の診療における留意点

－ニューキノロン系抗菌薬の位置づけ－」

黒野祐一

第10回自治医大頭頸部アレルギー・がんセミナー 平成21年10月29日 (宇都宮市)

「難治性副鼻腔炎の病態と治療」

松根彰志

島根大学医学部臨床講義 平成20年11月2日 (松江市)

「鼻内領域の疾患と治療 －薬物療法から鼻内視鏡手術まで－」

黒野祐一

平成21年度第2回愛知県耳鼻咽喉科医学会学術セミナー 平成21年11月14日 (名古屋市)

「鼻アレルギー診療ガイドライン2009年版の使い方」

黒野祐一

「耳鼻咽喉科 福岡治療セミナー -2009-」 平成21年11月20日 (福岡市)

「好酸球性副鼻腔炎とアレルギー性鼻炎の診断と治療」

松根彰志

第3回九州頭頸部癌フォーラム 平成21年11月28日 (福岡市)

「術前ワルチン腫瘍の感染を疑われた耳下腺低悪性度粘表皮癌症例」

林 多聞

第46回日本小児アレルギー学会 教育セミナー1 平成21年12月5日 (福岡市)

「小児アレルギー性鼻炎・花粉症の診療における留意点」

黒野祐一

佐賀県医師会学術講演会 平成22年1月15日 (佐賀市)

「花粉症の診断・治療における留意点」

黒野祐一

いわき市医師会学術講演会 平成22年1月19日 (いわき市)

「花粉症の診断と治療における留意点」

黒野祐一

花粉症セミナー in 和歌山 2010 平成22年1月23日 (和歌山市)

「花粉症の診断・治療における留意点」

黒野祐一

中国地区上気道アレルギー研究会 平成22年1月23日 (岡山市)

「アレルギー性鼻炎と VEGF, ロイコトリエン」

松根彰志

岐阜県耳鼻咽喉科医会学術講演会 平成22年1月24日 (岐阜市)

「花粉症の診断・治療における留意点」

黒野祐一

第75回 佐伯市医師会学術講演会 平成22年1月28日 (佐伯市)

「最近話題のアレルギー性鼻炎及び周辺疾患の治療」

松根彰志

花粉症学術講演会 平成22年1月30日 (岡崎市)

「花粉症の診断と治療における留意点」

黒野祐一

若手耳鼻科開業医勉強会 平成22年2月5日 (広島市)

「花粉症の診断と治療における留意点」

黒野祐一

鼻アレルギー講演会 平成22年2月6日 (大阪市)

「花粉症の診断と治療における留意点」

黒野祐一

第1回高槻・茨城耳鼻咽喉科臨床研究会 平成22年2月6日 (茨木市)

「最近話題のアレルギー性鼻炎及び周辺疾患の治療」

松根彰志

ENTファルマ 平成22年2月9日 (長崎市)

「花粉症の診断と治療における留意点」

黒野祐一

西讃地区耳鼻咽喉科講演会 平成22年2月10日 (観音寺市)

「花粉症の診断と治療における留意点」

黒野祐一

第18回アレルギー講習会 平成22年2月13日 (福岡市)

「アレルギー性疾患－特に花粉症について－」

黒野祐一

筑後地区耳鼻咽喉科専門医会学術講演会 平成22年2月13日 (久留米市)

「アレルギー性鼻炎・花粉症の最近の治療について」

松根彰志

第12回桜山耳鼻咽喉科臨床懇話会 平成22年2月20日 (名古屋市)

「鼻副鼻腔炎の最近の話題」

松根彰志

鼻アレルギー講演会 平成22年2月20日 (山形市)

「花粉症の診断と治療における留意点」

黒野祐一

倉敷アレルギー学術講演会 平成22年2月25日 (倉敷市)

「最近話題のアレルギー性鼻炎及び周辺疾患の治療」

松根彰志

北和鼻アレルギー講演会 平成22年2月27日 (生駒市)

「最近話題のアレルギー性鼻炎及び周辺疾患の治療」

松根彰志

宮崎県耳鼻咽喉科懇話会 平成22年3月2日 (都城市)

「花粉症の診断と治療における留意点」

黒野祐一

岐阜県耳鼻咽喉科医会東濃地区研修会第61回例会 平成22年3月4日 (恵那市)

「最近話題のアレルギー性鼻炎及び周辺疾患の治療」

松根彰志

秋田上気道疾患研究会 平成22年3月6日 (秋田市)

「最近話題のアレルギー性鼻炎及び周辺疾患の治療」

松根彰志

八代市郡医師会学術講演会 平成22年3月18日 (八代市)

「花粉症の診断と治療における留意点」

黒野祐一

弘前鼻アレルギー講演会 平成22年3月19日 (弘前市)

「花粉症の診断と治療の留意点」

黒野祐一

## (2) シンポジウム

第39回日本耳鼻咽喉科感染症研究会・第33回日本医用エアロゾル研究会  
平成21年9月4日～5日 (東京都)

「鼻アレルギーの局所療法・吸入療法」(エアロゾル)

アレルギー性鼻炎治療における鼻用噴霧ステロイドへの期待

松根彰志, 黒野祐一

「急性喉頭蓋炎の診断における問題点と対策」(感染症)

—成人における問題点—

吉福孝介, 黒野祐一

第21回日本アレルギー学会春季臨床大会 平成21年6月4日～6日 (岐阜市)

喘息と耳鼻咽喉科領域—病態とやさしい管理—

「耳鼻咽喉科から見た副鼻腔炎と喘息の合併について」

松根彰志

第59回日本アレルギー学会秋季学術大会 平成21年10月29日～31日 (秋田市)

「鼻噴霧用ステロイド薬のガイドラインにおける位置付け」

黒野祐一

第20回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会

平成22年1月28日～29日 (東京都)

頭頸部外傷への対応

「上顎(前頭骨を含む)・頬骨骨折」

大堀純一郎, 黒野祐一

## (3) ランチョンセミナー

第71回耳鼻咽喉科臨床学会および学術講演会 平成21年7月2日～3日(旭川市)

「好酸球性炎症性疾患」 好酸球性副鼻腔炎の病態と治療

松根彰志

第19回日本耳科学会総会・学術講演会 平成21年10月8日～10日(東京都)

「好酸球性上気道炎」 好酸球性副鼻腔炎の病態と治療

松根彰志

第33回日本頭頸部癌学会・第30回頭頸部手術手技研究会

平成21年6月10日～12日（札幌市）

頭頸部癌術後感染症への対応

黒野祐一

(4) 教育セミナー

第21回日本アレルギー学会春季臨床大会 平成21年6月4日～6日（岐阜市）

「ガイドラインの使い方のポイントシリーズ2 アレルギー性鼻炎」

黒野祐一

第59回日本アレルギー学会秋季学術大会 平成21年10月29日～31日（秋田市）

「アレルギー性鼻炎における好酸球の役割」

黒野祐一

(5) ワークショップ

第59回日本アレルギー学会秋季学術大会 平成21年10月29日～31日（秋田市）

「副鼻腔炎と喘息」

吉福孝介，松根彰志，黒野祐一

第57回日本化学療法学会西日本支部総会・第52回日本感染症学会中日本地方会学術集会

平成21年11月26日～30日（名古屋市）

「耳鼻咽喉科領域感染症」耳鼻咽喉科救急疾患・急性喉頭蓋炎

吉福孝介，黒野祐一

(6) 一 般

第2回気道粘膜における好酸球性炎症を考える会 平成21年4月4日～5日（東京都）

「好酸球性副鼻腔炎の診断基準—病理組織学的検討からの観点—」

吉福孝介，松根彰志

第29回気道分泌研究会 平成21年4月25日（東京都）

「好酸球性副鼻腔炎鼻茸中の好酸球遊走活性化因子発現についての検討」

原田みずえ，大堀純一郎，吉福孝介，松根彰志，黒野祐一

第110回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会 平成21年5月14日～16日（東京都）

「肺炎球菌/インフルエンザ菌の気道上皮付着における phosphorylcholine の関与」

川島雅樹, 田中紀充, 黒野祐一

第21回日本アレルギー学会春季臨床大会 平成21年6月4日～6日（岐阜市）

「鼻噴霧ステロイド薬初期療法における鼻粘膜H1レセプター mRNA 発現と好酸球浸潤の経時的変化」

宮之原郁代, 牧瀬高穂, 黒野祐一

「スギ花粉症に対するプラシカストの複数年における治療効果の検討」

積山幸祐, 松根彰志, 黒野祐一

第33回日本頭頸部癌学会・第30回頭頸部手術手技研究会

平成21年6月10日～12日（札幌市）

「サルベージ療法としてのサイバーナイフの位置づけ」

林 多聞, 大堀純一郎, 荻田幹夫, 黒野祐一

「下咽頭癌遊離空腸再建術術後局所合併症の検討」

大堀純一郎, 林 多聞, 黒野祐一

第4回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会

平成21年6月27日～28日（名古屋市）

「鼻腔内異物を疑われた逆生菌の2例」

川島雅樹, 大堀純一郎, 黒野祐一

「小児睡眠時無呼吸症候群の評価方法」

牧瀬高穂, 馬越瑞夫, 田中紀充, 松根彰志, 黒野祐一

第71回耳鼻咽喉科臨床学会総会および学術講演会 平成21年7月2日～3日（旭川市）

「耳鼻咽喉科感染症に対するガレノキサシンの臨床効果」

黒野祐一, 大堀純一郎, 松根彰志

「頸椎前方固定術18年後に食道穿孔をきたした1症例」

吉福孝介, 林 多聞, 大堀純一郎, 田中紀充, 黒野祐一

「鼻腔血管周皮腫が誘因と思われる腫瘍性骨軟化症の1例」

早水佳子, 林 多聞, 黒野祐一

「下咽頭・頸部食道を観察するための器具と方法の考案」

永野広海, 吉福孝介, 黒野祐一

- 第16回マクロライド新作用研究会 平成21年7月10日～11日 (東京都)  
「好酸球性副鼻腔炎副鼻腔炎鼻茸由来の培養線維芽細胞を用いたEM900の効果に関する検討」  
松根彰志, 原田みずえ, 吉福孝介, 大堀純一郎, 黒野祐一
- 第24回九州連合地方部会学術講演会 平成21年7月11日～12日 (福岡市)  
「下咽頭癌における頸部郭清術の検討」  
大堀純一郎, 林 多聞, 西元謙吾, 黒野祐一  
「好酸球性副鼻腔炎鼻茸を用いた好酸球浸潤の機序に関する検討」  
原田みずえ, 吉福孝介, 大堀純一郎, 松根彰志, 黒野祐一  
「上顎洞に発生した粘液腫症例」  
西元謙吾, 松崎 勉
- 第39回日本耳鼻咽喉科感染症研究会・第33回日本医用エアロゾル研究会  
平成21年9月4日～5日 (東京都)  
「上気道感染症に対するガレノキサシンの臨床効果」  
黒野祐一, 大堀純一郎, 松根彰志  
「アレルギー性副鼻腔炎に対するマクロライドと抗ヒスタミン薬の併用療法の有用性—CTによる評価—」  
田中紀充, 松根彰志, 吉福孝介, 相良ゆかり, 積山幸祐, 茶園篤男, 首藤 純, 黒野祐一
- 第22回日本口腔・咽頭科学会総会ならびに学術講演会  
平成21年9月10日11日 (和歌山市)  
「歯科治療で生じた顔面, 頸部皮下気腫, 縦隔気腫の一例」  
大堀純一郎, 林 多聞, 馬越瑞夫, 黒野祐一  
「後天性鼻咽腔狭窄症の1例」  
川島雅樹, 吉福孝介, 松根彰志, 黒野祐一
- 第48回日本鼻科学会学術講演会 平成21年10月1日～3日 (松江市)  
「好酸球性副鼻腔炎症例におけるカンジダアレルギーの検討」  
松根彰志, 吉福孝介, 牧瀬高穂, 大堀純一郎, 黒野祐一  
「経鼻の下垂体手術後に発症した鼻中隔膿瘍の1症例」  
吉福孝介, 黒野祐一

第19回日本耳科学会総会・学術講演会 平成21年10月8日～10日 (東京都)

「高音域に限局する感音難聴を呈した cochlear nerve deficiency の1例」

宮之原郁代, 宮下圭一, 黒野祐一

「小児めまい症例の治療における留意点について」

宮下圭一, 宮之原郁代, 黒野祐一

第59回日本アレルギー学会秋季学術大会 平成21年10月29日～31日 (秋田市)

「スギ花粉症に対する代替医療による鼻粘膜ヒスタミン受容体発現への影響に関する検討」

牧瀬高穂, 松根彰志, 原田みずえ, 田中紀充, 宮之原郁代, 岡本美孝, 黒野祐一

第61回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会

平成21年11月5日～6日 (横浜市)

「咽喉頭異常感主訴患者における咽喉頭逆流症の炎症所見と PPI の効果の関連について」

林 多聞, 松根彰志, 積山幸祐, 黒野祐一

「当院における特発性縦隔気腫16例の検討」

積山幸祐, 林 多聞, 松根彰志, 黒野祐一

第20回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会

平成22年1月28日～29日 (東京都)

「耳下腺筋上皮癌の一例」

高木 実, 後藤隆史, 笠野藤彦, 花牟礼 豊

第28回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会 平成22年2月18日～20日 (福井市)

「下鼻甲介由来培養繊維芽細胞の VEGF 産生に対するモメタゾンの産生抑制効果」

松根彰志, 原田みずえ, 吉福孝介, 大堀純一郎, 黒野祐一

第22回日本喉頭科学会総会・学術講演会 平成22年3月4日～5日 (下関市)

「急性喉頭蓋炎を繰り返した悪性リンパ腫症例」

原田みずえ, 大堀純一郎, 黒野祐一

## 5. 国際学会発表

Rhinology World 2009 Philadelphia, Pennsylvania USA April 15-19, 2009

Mini Seminar

「ESS for Blowout Fracture –Our Surgical Technique–」

**S. Matsune**

6<sup>th</sup> Extraordinary International Symposium on Recent Advances in Otitis Media

Seoul, Korea May-6-10, 2009

「Application of Mucosal vaccine for preventing otitis media」

**Y. Kurono**

「The role of vascular endothelial growth factor (VEGF) in otitis media with effusion」

**K. Sekiyama, S. Matsune, Y. Kurono**

「Mucosal and systemic immune responses induced by sublingual immunization with phosphorylcholine」

**N. Tanaka, Y. Hayamizu, K. Miyashita, Y. Kurono**

14<sup>th</sup> International Congress of Mucosal Immunology (ICMI 2009)

July5-9 • Boston, Massachusetts USA

「Sublingual Immunization with Phosphorylcholine has a Potential of Broad Spectrum Vaccine Against Upper Airway Infections」

**N. Tanaka, y. Hayamizu, K. Miyashita, S. Fukuyama, Y. Kurono**

### 1. 医局人事（平成22年4月現在）

|       |                      |
|-------|----------------------|
| 教 授   | 黒野祐一                 |
| 准 教 授 | 松根彰志                 |
| 講 師   | 吉福孝介                 |
| 助 教   | 大堀純一郎，田中紀充，早水佳子，宮下圭一 |
| 医 員   | 原田みずえ，川島雅樹，牧瀬高穂，馬越瑞夫 |
| 大学院生  | 川島雅樹，牧瀬高穂，永野広海       |

|       |       |
|-------|-------|
| 医 局 長 | 大堀純一郎 |
| 外来医長  | 早水佳子  |
| 病棟医長  | 吉福孝介  |

### 関連病院（平成22年4月現在）

|            |       |
|------------|-------|
| 鹿児島医療センター  | 西元謙吾  |
| 国立療養所星塚敬愛園 | 宮之原郁代 |
| 県立大島病院     | 休診    |
| 鹿屋医療センター   | 休診    |
| 済生会川内病院    | 休診    |
| 鹿児島生協病院    | 積山幸祐  |
| 藤元早鈴病院     | 森園健介  |
| あまたつクリニック  | 谷本洋一郎 |
| 鹿児島市立病院    | 高木 実  |

## 2. 学会報告

### 第2回気道粘膜における好酸球性炎症を考える会

吉 福 孝 介

気道粘膜における好酸球性炎症を考える会 (Study Group On Eosinophilic Inflammation In Respiratory Tract (SGEIRT)) は、その名の通り好酸球性炎症について疑問に思うことを論じる会であり、年に2回程度開催されます。当科からは、松根准教授と自分が参加させて頂いております。自分のテーマは、好酸球性副鼻腔炎であります。好酸球性副鼻腔炎は著名な好酸球浸潤と言われるものの、定義が各施設間で、一定しないことが問題であると考えました。また採取部位で好酸球浸潤は異なる可能性もあることから、今後のESS症例では、①ポリープ前 ②ポリープ後 ③自然口 (篩骨洞側) ④自然口 (篩骨洞側) ⑤上顎洞内部 以上5ヶ所の組織中好酸球数をカウントし差があるか否かについて検討したいと考えております。

### 第29回気道分泌研究会

原 田 みずえ

H21年4月25日、東京にて開催された第29回気道分泌研究会に、松根准教授とともに参加させていただいた。

今回、私は初参加であったので、どんな研究会なのか少し心配であった。大きな研究会ではないものの、耳鼻科以外の科の先生方が多数参加されており、内容も様々でおもしろい研究会であった。印象に残ったのは、イジブラスト (ケタス<sup>®</sup>) が、メカニズムは不明であるが、気道分泌亢進と喀痰喀出障害に対し有効であるという発表であった。普段、めまい症などによく処方することがあったが、喀出困難で難渋している症例があれば、試してみたいなと思った。

私は、「好酸球性副鼻腔炎鼻茸中の好酸球遊走活性化因子発現についての検討」と題して、発表させていただいた。結果の解析、考察が不十分であったため、もう少しデータを出していかなければならないと反省させられた。

## 第110回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会

川 島 雅 樹

第110回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会は平成21年5月14日～16日に東京都で開催されました。当教室からは黒野教授，松根準教授，積山先生，私の4人が参加致しました。私は，現在の研究テーマである肺炎球菌とインフルエンザ菌の気道上皮接着における研究内容について発表させて頂きました。研究内容は，まだ，不十分で検討の余地を多数残しておりますが，更なる研究の進展の為のよい機会となりました。

また，本会のメインの宿題報告にも大変，感銘を受け，臨床医であっても research の心を持つことのすばらしさを楽しみ感じました。

本会場は，東京タワーに近接する，最も東京らしい場所のひとつではありましたが，増上寺をはじめとする江戸時代の薫りも残った，素敵な場所であり，学会の合間に有意義な散策も行えました。

## 第21回日本アレルギー学会春季臨床大会

宮之原 郁 代

2009年6月4～6日，岐阜市で開催された第21回日本アレルギー学会春季臨床大会に黒野教授，松根准教授，積山先生とともに出席しました。岐阜県に足を踏み入れるのははじめでした。この年になっても，まだ行ったことがない県があり，（特に四国には全く足を踏み入れたことがありません。）その中のひとつにでかけることができ良かったです。今回，観光はしませんでした。雪の白川郷は，生まれも育ちも鹿児島の人にっては憧れにちかいものがあり，いつか是非行ってみたいと思っています。

さて，特別講演，招請講演，教育講演，シンポジウム，教育セミナー，また自分の発表の花粉症のセッションなどいくつか聞くことができました。講演を聞くことで得られたトレンドやタイムリーな話題など，何らかのかたちで臨床研究に生かしていければと思います。

## 第33回頭頸部癌学会・第30回頭頸部手術手技研究会

大堀 純一郎

本学会は、平成21年6月10日から6月12日まで、札幌のロイトン札幌で開催された。当科からは、黒野教授、林先生、私大堀の3名で参加した。6月10日の頭頸部手術手技研究会では、トップランナーの技術と題して、頸部郭清術の主義について、鎌田信悦先生、永原國彦先生、吉野邦俊先生による実際の頸部郭清術の手術ビデオを見て、ディスカッションするという非常に面白い企画であった。頸部郭清術のトラブルとして乳び瘻に対する対応を討論されており、ちょうど当科の病棟でも乳び瘻をきたした症例があったため、非常に勉強になった。頭頸部癌学会では林先生が、「サルベージ治療としてのサイバーナイフ」、私が「遊離空腸再建症例の合併症」についてポスターを展示した。学会の特別講演では、プロスキーヤーの三浦 雄一郎氏が「極限への挑戦 - 75歳エベレスト登頂 - 」と題して、いったん登山家を引退したのちに、再度エベレストへ挑戦するという講演を拝聴した。話を聞けば聞くほど、常人が、鍛えてエベレストに登れるようになるのではなく、天賦の素質があるのだと感じる講演であった。

## 第4回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会

川 島 雅 樹

第4回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会は平成21年6月27、28日に名古屋市で開催されました。当教室からは黒野教授、牧瀬先生、私の3人が参加致しました。

私は、最近経験した鼻腔内逆生歯牙の2例を報告致しました。大学病院に勤務していますと、小児の診療にあたることがそれほどなく、本学会では、多数の貴重な小児の耳鼻咽喉科疾患症例を学ぶことができ、有意義な時間を過ごすことができました。また、普段なかなか、聞くことのできない耳鼻咽喉科疾患に対する小児科の先生方のお考え、ご意見を拝聴できることが、本学会に参加する魅力と感じました。

今学会で発表した内容については、論文にもまとめることができ、より能動的な考察をする機会が得られ、大変有意義でした。日常の診療の多忙の中で、ついつい受動的な考察にとどまりがちになるなかで、発表・論文と自分の考察をより深めることの重要性を身をもって感じることができました。

## 第71回耳鼻咽喉科臨床学会総会および学術講演会

早水佳子

平成21年7月2日～3日に、旭川グランドホテルにて旭川医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座のもと開催されました。黒野教授をはじめ、松根准教授、吉福先生、自治医科大学出身で以前当科にも研修に来られた永野広海先生も参加されていました。南の果てから北の果てへの移動であり、7月といえども日が沈むと少し肌寒く、長袖着用でないと耐えきれない温度でありました。並行して2～3つのランチョンセミナーや教育講演が行われたため、どれも興味深い内容で本当にどの会場に出席しようかと迷いに迷う内容が盛り込まれたプログラムでした。本学会の特徴として多数のポスター展示があるため、数多くの症例を知ることが出来、非常に有意義な時間を過ごすことが出来ました。また、何よりも北の大地の食べ物はどれも絶品で、旭川医科大学の医局員によるピアノの生演奏の中、味わう懇親会もとても楽しいものになりました。学生のようにしゃぎ、これ以上無理という限界まで食べ尽くしました。隣にいる、吉福先生・永野先生も言わずもがな…。同じような状態でした。

## 第16回マクロライド新作用研究会

松根彰志

平成21年7月10日（金）～11日（土）、北里大学コンベンションホール（東京 白金）にて当番世話人、砂塚敏明先生（北里大学北里生命科学研究科教授）のお世話で開催された。呼吸器、耳鼻科領域、慢性気道炎症におけるマクロライド療法の臨床的、基礎的研究を基本として、ライノウイルスやインフルエンザ感染のなどウイルス感染の抑制的效果、COPDの急性増悪防止など、社会的にもインパクトのある領域への臨床応用の可能性が示された。エリスロマイシン（EM）の新規誘導体であるEM900の効果、臨床応用への可能性に関する演題も多々発表された。当科からも、松根が「好酸球性副鼻腔炎鼻茸由来の培養線維芽細胞を用いたEM900の効果に関する検討」という演題で口演発表を行なった。

また、以下のごとく特別講演の企画もあり、大変興味深い内容であった。

### ①Chemokines and Lipid Mediators in Pulmonary Fibrosis

Andrew D. Luster, M.D., Ph.D.

Division of Rheumatology, Allergy and Immunology Center for Immunology and  
Inflammatory Diseases Massachusetts General Hospital

②Long-term Erythromycin Therapy Is Associated with Decreased Chronic Obstruc-  
tive Pulmonary Disease Exacerbations

Terence Seemungal FRCP PhD

Professor Head, Adult Medicine Unit Faculty of Medical Sciences University of  
the West Indies St. Augustine Campus Trinidad and Tobago

## 第24回九州連合地方部会学術講演会

原 田 みずえ

今年の九州連合地方部会学術講演会は、H21年7月11日、12日に、福岡で開催された。例年なら、女子である私は鹿児島にお留守番係なのであるが、今回はポスター演題で発表することになり、久しぶりに参加させていただくこととなった。この会は、医局員総出で参加するので、ちょっとした医局旅行みたいなものなので、楽しみであった。

しかし、この会は医局対抗野球大会があるのだが、鹿大チームは医局員が少ないので、私も野球に参加しないとメンバーが足りなくなると言われ、私も嫌々ながら参加するつもりでいたのだが、「雨よ～、お願いだから、降ってくれ～」と祈り続けたせいか、運よく大雨となり、野球は中止となり、野球に出なくて済んだ。お陰で、大宰府天満宮や、国立博物館に行くことができ、ラッキーだった。

ポスター発表自体は、先日、気道分泌研究会で発表した内容の延長であったが、発表の後に、いろいろ実験の方法についてのアドバイスをいただけて、参加してよかったと思った。

## 第22回喉頭科学会総会・学術講演会

原 田 みずえ

H22年3月4日、5日に、下関で第22回喉頭科学会・学術講演会が開催され、黒野教授とともに参加させていただいた。

私は、急性喉頭蓋炎所見を呈し、診断に苦慮した咽喉頭および頸部に発生した悪性リンパ腫症例について症例発表させていただいた。

ちょうど黒野教授が座長を務めてくださったお陰で、落ち着いて発表できたのだが、ゆっくり発表しすぎて、2分以上も発表時間がオーバーしたため、その後の群の先生方の発表にしわ寄せがきてしまい、大変申し訳ないことをしてしまったと反省した。

臨床から基礎まで、いろいろな発表を聞くことができたので、ためになった。

下関は、鹿児島駅の周辺の雰囲気似た情緒のあるところであったが、学会場の隣に「海峡ゆめタワー」という143mもある30階建の高層タワーもあって、最上階の展望台から下関市内を一望でき、最高であった。ただ、宮本武蔵で有名な巖流島が想像よりもすごく小さかったのにはびっくりした。今、坂本龍馬の大河ドラマの影響で、幕末がブームになっているが、坂本龍馬とともに下関で活躍した高杉晋作の終焉の地や、吉田松陰が祀られている桜山神社など1時間ほど歩いて観光することができた。海峡の町だけあって、海の幸も非常においしく、またゆっくりと来てみたいところだと思った。

## 第48回日本鼻科学会総会・学術講演会に参加して

吉 福 孝 介

第48回日本鼻科学会総会・学術講演会は平成21年10月2日～3日に鳥根県民会館で開催され、当教室からは黒野教授、松根准教授と自分吉福が参加させていただいた。黒野教授は韓国鼻科学会と日本鼻科学会交流プログラム、ランチョンセミナーで司会を務められ、松根准教授は好酸球性副鼻腔炎におけるカンジダアレルギーの検討を発表され、嚢胞での座長もされました。自分吉福は鼻中隔膿瘍を発表させていただいた。自分なりに勉強し発表に臨んだが、厳しい質問なども受け、なかなかうまく質疑に返答できず悔やまれる結果となってしまった。学会自体は鼻科学に対する研究から臨床に至るまでの学会であり非常に勉強となった。

## 第19回日本耳科学会総会・学術講演会

宮 下 圭 一

2009年10月8日～10日に東京医科歯科大学耳鼻咽喉科の喜多村先生が主催された第19回日本耳科学会総会・学術講演会に、黒野教授、松根先生、宮之原先生、私の計4名で参加致しました。宮之原先生は、「高音域に限局する感音難聴を呈した cochlear nerve deficiency の1例」という演題で、私は「小児めまい症例の治療における留意点について」という演題で発表しました。ライブサージェリーでは上鼓室型真珠腫に対する鼓室形成術をみることができたり、側頭骨実習では実際に側頭骨を使いながらの解剖のポイント解説を受けたりすることができました。また特別講演では BAHA — Bone Anchored Hearing Aid — past and present という演題で BAHA の歴史や仕組みなどについて学ぶことができ、充実した学会内容でとても勉強になりました。

## 第59回日本アレルギー学会秋季学術大会

牧 瀬 高 穂

平成21年10月29日から3日間、秋田で行われた第59回日本アレルギー学会秋季学術大会に教授、松根先生、吉福先生、私の4名で参加いたしました。「アレルギー学・アレルギー診療のたゆまざる挑戦-Prevention, Care and Cure-」のテーマで行われた学会で、さまざまな教育講演や各科から多くの発表が行われており、異なった診療科の研究やそのコンセプトは、自身の臨床及び研究を行う上で大変勉強となりました。私の発表は「スギ花粉症に対する代替医療による鼻粘膜ヒスタミン受容体発現への影響に関する検討」でした。多くの質問・意見をいただき、今後の参考となり、大変有意義な発表でした。夜は、秋田名物きりたんぼと稲庭うどんに舌鼓をうち、これまた有意義な時間を過ごすことができました。

## 第57回日本化学療法学会，第52回日本感染症学会に参加して

吉 福 孝 介

57回日本化学療法学会，第52回日本感染症学会は平成21年11月26日～28日に名古屋国際会議場で開催され，当教室からは黒野教授と自分吉福が参加させていただいた。

今回のテーマは感染症学と化学療法学のクロストークということであり，自分吉福は耳鼻咽喉科感染症，耳鼻咽喉科救急疾患：急性喉頭蓋炎を発表させていただいた。耳鼻科以外の Dr も参加しており様々な質問を受け，本疾患に対する関心の高さをあらためて実感した。その他，感染症学に対する研究から臨床に至るまでの学会であり非常に勉強となった。

## 第20回頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会

大 堀 純一郎

本学会は平成22年1月28日，29日に東京の京王プラザホテルにて開催された。当科からは，黒野教授，鹿児島市立病院に出向している高木実先生，私大堀が参加した。本学会では，耳下腺が専門の東京女子医大の吉原俊夫先生が会長であったこともあり，耳下腺疾患が指定演題であり，特別講演も sialoendoscopy による唾石の低侵襲治療の演題であった。

シンポジウムでは，新しく立ち上がった頭頸部がん専門医制度をテーマとして取り上げ，今後，質の高い頭頸部癌治療医をいかに育て，増やしていくかという議論が交わされた。

また，私も頭頸部外傷への対応をテーマとしたシンポジウムで，シンポジストを務めさせていただいた。経験も浅いながら大役を賜り発表に向けて自分でも非常に勉強になった学会であった。

## 第28回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会

松 根 彰 志

平成22年2月18日（木）から20日（土）に福井市，AOSSA 県民ホールを中心に，福井大学（会長 藤枝重治 教授）の主催で開催された。

教育研修会では以下の演題で講演が行なわれ，最先端の研究内容に深い感銘と刺激を受けた。

①樹状細胞による Ig A 産生調節機構

樗木俊聡 先生（東京医科歯科大 教授）

②IL-18, IL-33好塩基球によるアレルギー性炎症の誘導と増悪機序

中西憲司 先生（兵庫医科大 教授）

また，スポンサードレクチャーでは，オリンピック選手の，朝原宣治氏，奥野史子氏ご夫妻の大変興味深い，笑いあり，感動ありのお話をおうかがいすることができた。そして，スポンサードセミナーでは，清野 宏先生（東京大 医科学研究所 教授）の粘膜免疫のお話を拝聴することができた。

黒野祐一教授は，本学会の理事長として，国際交流基金，帰国報告会（鈴木元彦先生，名古屋市立大）やスポンサードセミナー（清野 宏 先生）の座長など，学会場，その他会議，打ち合わせ等で大変忙しくしておられた。一方，私は，「下鼻甲介由来培養線維芽細胞の VEGF に対するモメタゾンの産生効果」という演題で，口演（一般演題）させていただいた。

## 第22回日本口腔・咽頭科学会総会ならびに学術講演会

川 畠 雅 樹

第22回日本口腔・咽頭科学会総会ならびに学術講演会は平成21年9月10, 11日に和歌山市で開催されました。当教室からは黒野教授, 大堀先生, 私の3人が参加致しました。

私は, 咽頭に発生した悪性リンパ腫の放射線治療後に鼻咽腔狭窄を来し, 治療に苦慮した症例について発表させて頂きました。長い経過の症例を, 限られた時間内にいかに端的に, より深く考察し, 伝えるかということの大切さを実感する発表でした。今回の発表での課題を今後の発表に活かしていきたいと思います。

本会では, 口腔咽頭の分野が大変興味深い切り口で取り上げられており, いつのまにか引き込まれてしまう場面が多数あり, 学会の合間に散策するのも忘れてしまうほどでした。

特に, これまで私自身が軽視しがちな部位であった上咽頭にスポットを当てたセッションでは, まさに「目からうろこ」という内容に多数出会えました。

学会中の和歌山散策は, あまりできませんでしたが, 帰路の途中, 大阪で普段は職場にいるはずの時間帯にお好み焼き, たこ焼き, ビールを頂くことができ, リフレッシュすることができました。発表・勉強が学会の重要な目的の一つですが, ちょっとした合間に行えるリフレッシュもまた, 学会の重要な効用の一つと思えるひとときでした。

## Rhinology World 2009 Philadelphia, Pennsylvania USA April 15-19, 2009

松根彰志

- ①13<sup>th</sup> International Rhinology Society (IRS)
- ②28<sup>th</sup> International Symposium on Infection and Allergy of the Nose (ISIAN)
- ③2009 Spring Meeting of the American Rhinologic Society
- ④Basic Course of the American Academy of Otolaryngologic Allergy

会期 2009年4月15-19日

会場 Philadelphia, Pennsylvania USA

今回は、①～④の4つの国際およびアメリカの鼻科領域の学会が合同で、Rhinology World 2009として開催されました。

フィラデルフィアは、東部ペンシルバニア州にある合衆国有数の大都市の1つです。歴史的には、1682年、クエーカー教徒のウィリアム・ペンが同志とアメリカに渡来、この地に居住区を建設したのが市の起源です。ペンはこの地を古代ギリシア語で「兄弟愛の市」を意味する ( $\Phi \iota \lambda \alpha \delta \epsilon \lambda \phi \epsilon \iota \alpha$ , フィロス=愛, アデルフォス=兄弟, ア=都市名につく語尾形)「フィラデルフィア」と命名したそうです。18世紀を通じてフィラデルフィアは北米最大の都市で、独立戦争時、州議事堂(現独立記念館)で大陸会議や独立宣言の起草が行われました。また1790年に合衆国の首都がニューヨーク市からフィラデルフィアに移ってくると、新都ワシントン特別区の建設が一段落する1800年までの10年間合衆国連邦政府の首都でもありました。

私個人にとって、フィラデルフィアを訪れたのは、通算で3回目です。1988～90年まで同じペンシルバニア州にあるピッツバーグのピッツバーグ大学に留学していた頃、夏休みの旅行でフィラデルフィアにも寄りました。1997年の16<sup>th</sup> ISIANがフィラデルフィアで開催された時が2回目で、学会後レンタカーでピッツバーグに寄ってから帰国しました。この時の、ISIANの会長が、今回IRSの会長をつとめられた、ペンシルバニア大学のKennedy DW教授でした。

学会の形式は、Mini SeminarとInstructional Courseが中心で構成されていました。内容的には、やはり中心は、鼻副鼻腔炎、鼻茸に対する病態と内視鏡下鼻内手術でした。これに加えて、Rhinoplastyや腫瘍に対するEndoscopic Skull Base Surgery関連のテーマが多く掲げられていたのが印象的でした。その一方で、閉塞性の睡眠時無呼吸症候群(OSAS)に対する鼻呼吸改善の重要性に関するものが、(私が気がついたのは)Mini

Seminar が1つだけでやや意外でした。私自身、OSAS への外科系耳鼻咽喉科医がかかわるべき重要な分野が、咽頭部への手術 (UPPP) に勝るとも劣らないぐらい、鼻腔通気改善手術の分野であり、まさに Rhinologist の腕の見せ所と考えていましたので「あれっ?!」と思いました。また、日本でいうところの「好酸球性副鼻腔炎」に関しても、あまり積極的には取り上げられていなかったような気がします。こうした呼び方自体が欧米では不評なのかもしれません。しかし、かつて当初マクロライド療法が(先輩方の話です)欧米で一方向的にたたかかれていたのが、その後米国を中心に風向きが変わったことも最近経験していますし、最初から欧米の分類やガイドラインに媚びる必要はないと思います。個人的には、かつて Eosinophilic mucin rhinosinusitis と Allergic fungal sinusitis の鑑別をテーマにした論文-Eosinophilic mucin rhinosinusitis: a distinct clinicopathological entity Laryngoscope 110; 799-813, 2000.-を書いておられる Dr. BJ Ferguson (ピッツバーグ大学) と、たまたま学会場でお会いできたことは、大変ラッキーでした。ちなみにこの論文は、知る人ぞ知る大変有名な論文で、私もよく引用させてもらっています。

ところで、私の出番は、4月17日(金)の午前中にあった、Mini Seminar “Endoscopic Sinus Surgery” でした。座長は、森山 寛教授(慈恵医大)と Professor Palmer JN (今回の ISIAN 部門の President) でした。そして、慈恵医大の鴻先生が前頭洞手術について講演された後に、私が眼窩吹き抜け骨折に対する鼻内内視鏡下の整復手術—下壁型に対しても内視鏡下に鼻内の操作のみで手術をする—お話をさせていただき、それから獨協医大の春名教授が好酸球性副鼻腔炎などの難治再発例に対する鼻内内視鏡下手術の講演をされました。開始前、鴻先生と「(聴衆が)10人集まればいいよね。」などと言っておりましたが、蓋をあけてみると約150人程度入る部屋が聴衆で一杯になったのは嬉しい誤算でした。久々の国際学会での英語のプレゼンでしたのでかなり気合いが入りました。動画を中心とした(ビデオ)演題を作るのは準備の段階では大変でしたが、お陰様でとても充実した Seminar となり、機会を与えた下さった森山教授はじめ関係各位に心から感謝しております。

国際学会は、海外を訪れるワクワク感とともに、国内外の多くの友人と一同に会することができる特別な場であると思っております。今回の学会も「知的な欲求」も含め多くの欲求を満たしてくれる素晴らしく愉快的な機会となりました。ただ、やはり国際学会では日本人はまだまだおとなしいという印象で、もっと(良い意味で)「目立つ日本人」が出てきてもいいような気がします。日々多忙な中、こうした時間を与えていただいた、鹿児島大学の黒野教授をはじめ教室の各位に感謝申し上げます。



(写真1) 自由の鐘 Liberty Bell

- ①1774年に行われた大陸会議の開催の時、
- ②1775年に勃発したレキシントン・コンコードの戦いの始まりを知らせる時
- ③1776年のアメリカ独立宣言の朗読の時、打ち鳴らされた歴史的に重要な鐘です。



(写真2) フィンランドの Rautiainen M 教授 (中央) -第25回 ISIAN (2006年) in Finland の会長で、若い頃 (当時、私も若かった!), 鹿児島大学, 耳鼻咽喉科学教室に1年間ご家族と一緒に滞在されました。右側は息子さん。



(写真3) 学会主催の Welcome Party。左から岡野先生（岡山大学）三輪先生（獨協医大）、春名先生（獨協医大）、私、Rautiainen 先生（フィンランド）、森山先生（慈恵医大）、鴻先生（慈恵医大）森山 寛教授は、第30回 ISIAN in Tokyo, Japan（2011）の会長です。



(写真4) 私とピッツバーグ大学の Dr. Ferguson BJ（上）、AFS と EMRS; Dr. Ferguson の論文をもとに両疾患の特徴を比較して作製した表（次頁）。

### 好酸球性ムチン鼻副鼻腔炎の臨床病態 アレルギー性真菌性副鼻腔炎(AFS)との比較

|                       | Allergic Fungal Sinusitis (AFS) | Eosinophilic Mucin Rhinosinusitis (EMRS)        | P      |
|-----------------------|---------------------------------|-------------------------------------------------|--------|
|                       | 1981                            | 1983                                            |        |
| fungal hyphae         | Y                               | N                                               |        |
| mean age              | 30.7 y                          | 48.0y                                           | <.001  |
| male to female ratios | 1.03:1                          | 1.26:1                                          | n.s.   |
| asthma                | 41%                             | 93%                                             | <.0001 |
| aspirin sensitive     | 13%                             | 53%                                             | <.0001 |
| polyp occurrence      | 100%                            | 100%                                            | n.s.   |
| allergic rhinitis     | 84%                             | 63%                                             | 0.004  |
| bilateral disease     | 55%                             | 100%                                            | <.0001 |
| total Ig E            | 12-13,084, mean 1,941 mg/dL     | 14-1,162, mean 267 mg/dL                        | <.0001 |
| Ig G1 deficiency      | 0%                              | 50%                                             |        |
|                       | allergic response to Fungi      | systemic dysregulation of immunological control |        |

Ferguson BJ. Eosinophilic Mucin Rhinosinusitis: A Distinct Clinicopathological Entity. *Laryngoscope* 110:799-813, 2000



(写真5) 今回宿泊した Four Season Hotel の目の前が、学会場の Sheraton Hotel.



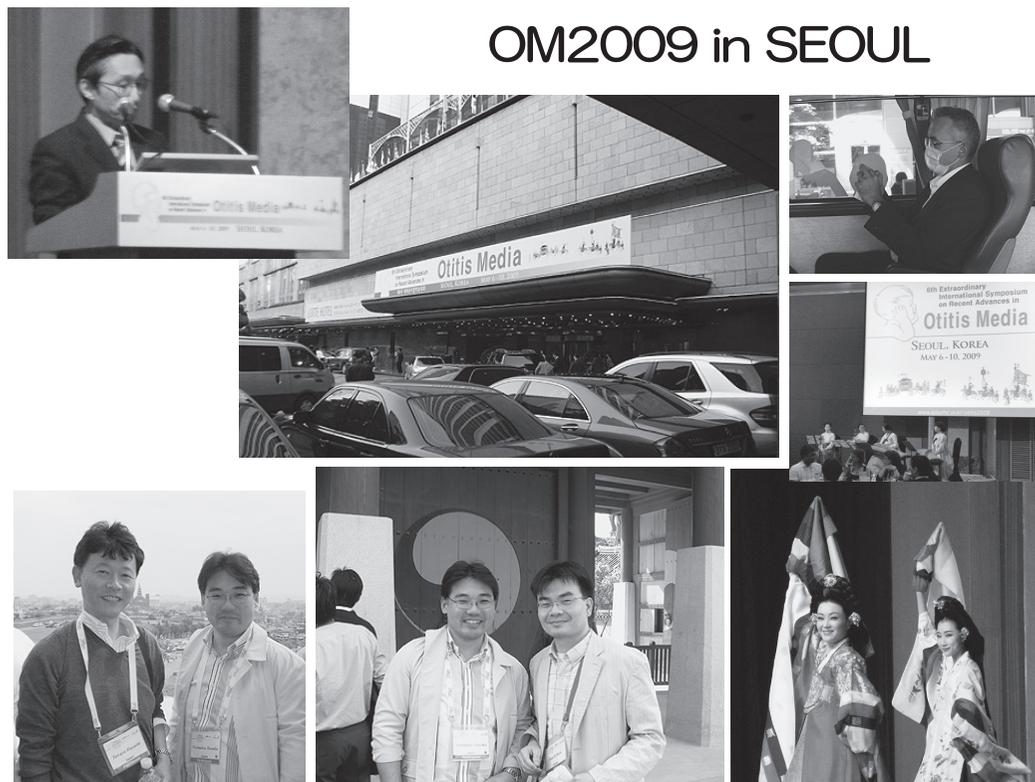
(写真6) Gala Banquet (学会主催の晩餐会) が開かれた, National Constitution Center (上, 外観, 下, 建物の中) です。

## 6<sup>th</sup> Extraordinary International Symposium on Recent Advances in Otitis Media Seoul, Korea May-6-10, 2009

田中紀充

平成21年5月6日から10日にかけて、韓国ソウルにて開催されました。折りしも新型インフルエンザが世界に蔓延する中にて、渡航が出来るか微妙な時期ではありましたが、無事に参加することが出来ました。仁川空港では、せっかく持参したので積山先生とマスクをして韓国入国しましたが、さすがに、ソウル市街では違和感がありはずしました。ホテルに着くと、当教室に以前短期留学していた朴先生が部屋を訪ねてきて、久しぶりの再会に、思い出話や現況についてつつい時間を忘れて盛り上がりました。夜は、積山先生と明洞にくりだして、屋台で飲みましたが、日本人だからか結構お高くつきました。ちなみに、以前、中国人の孫先生と飲んだときは安かったのですが・・・。

学会においては、シンポジウム：Vaccines against OM : Current Statusにて、黒野教授が“Application of mucosal vaccine for preventing otitis media”にて当教室でのPCを用いた粘膜免疫の実験結果について発表されました。また、積山先生が“The role of VEGF in otitis media with effusion”でポスター発表し、私が“Mucosal and



systemic immune responses induced by sublingual immunization with PC”にて発表させていただきました。同じセッションで、チンチラの耳介経皮抗原投与による粘膜免疫誘導を観察した興味深い発表があり、現在、当教室でもマウスを用いて経皮免疫による上気道粘膜免疫誘導の実験が試行されております。

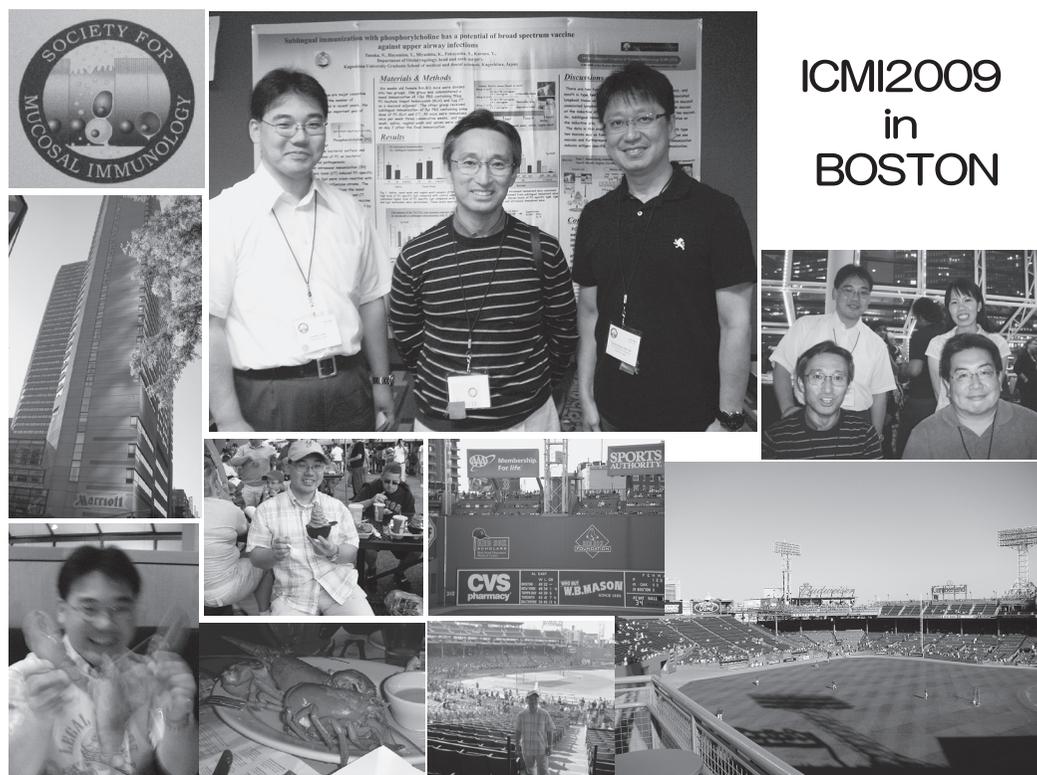
学会終了後、鹿児島からは一人残りましたが、学会ツアーに参加して、大分大学、旭川医科大学、朴先生と韓国の伝統文化にふれながら楽しい時間を過ごさせていただきました。

## 14<sup>th</sup> International Congress of Mucosal Immunology (ICMI 2009) July 5-9 • Boston, Massachusetts USA

田中紀充

平成21年7月5日から9日にかけて、国際粘膜免疫学会がボストンにて開催されました。新型インフルエンザのほうは世間でも情報に対して免疫が出来て、予定通りに参加いたしましたが、帰国後、発熱しないように気を使いました。

学会においては、“Sublingual immunization with PC has a potential of broad



spectrum vaccine against upper airway infections”にてポスター発表させていただきました。興味を持っていただいた先生から質問も頂きました。また、医科学研究所清野教室のメンバーとも久しぶりに再会して、いろいろと話が出来て楽しい一時でした。

2回目のアメリカ合衆国でしたが、前回のフロリダにての中耳炎学会は学会というよりは・・・という雰囲気でしたが、今回のボストンの街並みは綺麗で、アカデミックでとてもすばらしかったです。レッドソックスの本拠地 Fenway park でのメジャーリーグ観戦、ハーバード大学へも行ってみました。また、航空会社の都合でアップグレードされて往復ビジネスクラスでのフライトとなり快適な旅となりました。

私は、これまでに14回の国際学会に参加しましたが、大学退職に伴い、この学会が最後の国際学会でした。科学研究費の獲得状況からも、耳鼻科における粘膜免疫の領域は、とても興味深く注目されている分野だと思います。黒野教授の指導に従って後輩の皆さんには、粘膜免疫の研究を続けていただきたいと思います。

## 4. 関連病院便り

## 国立病院機構 鹿児島医療センター09

西元謙吾

鹿児島医療センターの耳鼻咽喉科も松崎・西元体制になり2年目に入りました。昨年度は後期研修と研修医の方々が来ていただき、7ヶ月間は曲がりなりにも3人で診療できましたが、平成20年11月からその研修医の先生も来なくなり、それ以降約1年半2人体制で外来・入院・手術をこなしました。それでも昨年とほぼ同じ症例を治療することができたのは、看護師などのパラメディカルや事務といった周りのサポートのおかげでした。しかし、新たにメンバーになった医療事務の方をフル回転して何とかできている状況であったのは確かです。患者への説明など重要な所はやはり我々が行わなくてははいけませんので、明らかに昨年より状況が厳しかったのは否めません。来年度、鹿児島医療センターに医師のマンパワーがようやく増えるかも知れない、という噂に一喜一憂している今日この頃です。

今年度、我々は日本頭頸部外科学会の頭頸部癌暫定指導医を2人とも取得し、鹿児島医療センター耳鼻咽喉科も頭頸部癌研修施設にも無事に登録されました。今後も鹿児島県における頭頸部癌治療の質をいっそう高めなくてはいけないと身の引き締まる思いです。さらに、今年度も緩和ケアの研修などの受講で、末期患者などを含む頭頸部癌患者に対する接し方についても向上させる努力を続けました。来年度もこれまで以上に患者の立場に立った治療に努めていきたいと考えています。

さて、来年度の医療費改正により頭頸部癌の手術点数が大幅に引き上げられるようです。これは、これまで手術料が安い安いと言われていた頭頸部外科医にとって朗報です。特に腹直筋皮弁や遊離空腸などのマイクロ血管吻合を要する手術は約3万点アップと言う大判振る舞いでした。来年度は私達の病院にもいい風が吹くような気がしてなりません。

## 良性疾患

|                                  |        |
|----------------------------------|--------|
| 口蓋扁桃摘出術・アデノイド切除術・咽頭形成術など         | : 122例 |
| 内視鏡下副鼻腔手術（乳頭腫, devi+con 同時手術も含む） | : 117例 |
| 鼻中隔矯正術・粘膜下鼻甲介骨切除術単独              | : 32例  |
| 鼓室形成術                            | : 38例  |
| 鼓膜形成術                            | : 6例   |

|                        |       |
|------------------------|-------|
| 顔面神経管開放術・内耳窓閉鎖術        | ： 4 例 |
| 耳下腺腫瘍切除術               | ： 25例 |
| 顎下腺摘出術                 | ： 12例 |
| 甲状腺腫瘍摘出術               | ： 14例 |
| 頸部腫瘍・嚢胞摘出術             | ： 17例 |
| 口腔・副鼻腔腫瘍摘出術            | ： 17例 |
| 喉頭直達鏡手術・食道直達鏡手術        | ： 79例 |
| その他（気管切開・耳瘻孔・皮弁形成術など）  | ： 48例 |
| <hr/>                  |       |
| 良性疾患手術症例               | 531例  |
| <br>                   |       |
| <u>悪性疾患</u>            |       |
| 頭頸部悪性腫瘍手術（遊離皮弁による再建あり） | ： 16例 |
| 頭頸部悪性腫瘍手術（遊離皮弁による再建なし） | ： 22例 |
| 頸部郭清術単独                | ： 5 例 |
| 甲状腺悪性腫瘍手術              | ： 7 例 |
| 耳下腺悪性腫瘍手術              | ： 1 例 |
| 顎下腺悪性腫瘍手術              | ： 1 例 |
| 側頭部 MFH                | ： 1 例 |
| 頭蓋底手術（脳外との合同手術）        | ： 1 例 |
| <hr/>                  |       |
| 悪性疾患手術症例               | 54例   |
| <br>                   |       |
| 総症例数                   | 585例  |

## 鹿児島市立病院便り

鹿児島市立病院耳鼻咽喉科 花牟礼 豊

### 笠野藤彦先生の思い出

鹿児島市立病院耳鼻咽喉科に長く勤務されていた笠野藤彦先生が、平成22年1月17日、肝内胆管癌にて54歳の若さでご逝去されました。先生は、宮崎大学のご出身で当同門会員ではありませんが、鹿児島県の耳鼻咽喉科医療に極めて大きな貢献を為されました。私は、笠野先生と鹿児島市立病院で12年半の間、お仕事をご一緒させていただきましたが、先生の思い出について書かせていただきたいと思います。

平成9年7月に私が、鹿児島市立病院耳鼻咽喉科に赴任し、翌8月に笠野先生が赴任しました。それまで地方部会などで何度かお会いしているはずですが、先生のことは全く知らず、直接お話したこともありませんでした。ただ、耳の手術のエキスパートであることを鹿島先生からお聞きしただけでした。しばらく勤務を続ける中、先生は今まで私がお会いしたどの先生とも違うキャラクターの持ち主であることが分かり、はじめは戸惑いがありました。私が術者として一緒に手術をするとちゃんと鉤を引いてくれない、先生の耳の手術を見に行くと、それまで鼓室内を操作していたのに急に筋膜採取を始める、外来診療中に急にいなくなりしばらく帰ってこない、外来途中、患者さんを前に鹿島先生とよく喧嘩をする、時には看護婦と言い争いをして壁に穴を開ける、等々です。

しかし、なかなか憎めないキャラクターの持ち主なのです。患者さんには非常に優しく丁寧に診療をしており、患者さんからの評判も良く、耳の手術についてはうわさ通りの素晴らしい成果を上げていました。患者さんには多くのファンがいました。特に年配の女性患者には熱烈なファンが居られました。入院患者は女性が多かったように思います。ある時入院患者のリストを見ると、笠野先生主治医の入院患者10数名は皆女性、私は頭頸部癌患者が多い関係で、私の患者10数名はすべて男性ということもありました。また、看護婦とも非常に仲が良く、たまに言い争いはあるのですが、彼のファンが多数います。

耳の手術については術前の説明がきわめて丁寧でした。耳の解剖から始まり1時間以上時間をかけていました。その熱意におされて皆さん満足されていました。耳の手術は、鼓膜形成術、鼓室形成術、アブミ骨手術、人工内耳埋込み術など、多数の症例をこなしており、この12年間に、1,000例以上の鼓室形成術を行っていると思います。平成18年には年間120例の鼓室形成術を行っていました。当初、私も耳の手術を行っていましたが、平成16年以降は、私が頭頸部癌担当で彼が耳担当と完全に分けたので、この数は彼一人での手術件数です。ある週刊誌が全国の耳鼻咽喉科での鼓室形成術件数の全国

ランキングを行っていましたが、鹿児島市立病院は十数位にランクされていました。全国でも一人でこれだけの鼓室形成術をこなしていた耳鼻科医は極めて少ないと思います。中には、全国で初めて、好酸球性中耳炎による聾患者への人工内耳埋込み術を行った例もあります。ただ、残念なのは、症例をまとめようとしない、症例報告を論文にしないことです。そのため、これだけの症例をまとめた記録がないのは心残りです。

笠野先生を表す Key word として、「物へのこだわり」、「おしゃれ」があります。手術器具へのこだわりはもちろんですが、手術中に局所麻酔薬を入れておく入れ物へのこだわりもありました。ある時、手術室で入れ物を統一し、今までの物が使えなくなることがありました。笠野先生は、手術室に怒鳴り込んでゆき、スタッフと激しく言い争った末、手術室スタッフが折れてしまいそのまま使えることになりました。その他、仕事以外でもこだわった物として、ステレオスピーカー、自転車、めがね、手提げ鞆、手袋、トレンチコート、エレキギター、などいろいろな物があつたようです。この「こだわりの物」に話が及ぶと非常に多弁になり話はずみません。そして彼なりの理論を決して曲げようとしません。また、「こだわり」にも関連して、先生は非常におしゃれでした。トレンチコートを着て帽子をかぶりおしゃれな眼鏡をかけた笠野先生の姿が思い浮かびます。

平成20年11月末、笠野先生から突然、どうも消化器系の癌らしく、しばらく仕事を休む事を聞かされました。検査を進める中、化学療法を行うこと、手術はできないこと、進行した状態であることなどを聞きました。抗がん剤の副作用で一時、重篤な状態もありましたが、化学療法を続けながら、比較的安定した状態が続き、耳鼻科外来にも毎朝、顔を出し、その後外来化学療法室へ行っていました。朝、外来で笠野先生の姿を見かけると我々もほっとしていました。いつまでのこの状態が続くような気がしていました。しかし、平成21年12月24日急遽再入院となり、平成22年1月17日亡くなるまで、退院する事はできませんでした。

1年2ヶ月の間、それまでにない貴重な時間をご家族で過ごされたことを、奥様からお聞きしました。特に奥様は笠野先生にずーっと付きっきりで、端から見ても羨ましい程でしたが、お二人で東京へ旅行に行ったり、結婚20周年の記念に Wedding dress での写真を撮ったりと、充実したかけがえのない時間を過ごされたそうです。笠野先生は病いと戦い、痛みを麻薬でコントロールしながら、つらいことも多かつたろうと思いますが、残された貴重な猶予期間を、十分に濃縮された時間として過ごされたのではないのでしょうか。二人に一人が癌に罹り、三人に一人が癌で死ぬこの時代に、笠野先生の姿を見て、不謹慎かもしれませんが、癌もわるくはないな、と思いました。

笠野先生、長い間お疲れさまでした。そして、ありがとうございます。心からご冥福をお祈りいたします。



## 鹿児島市立病院便り 増刊号

高 木 実

いつも皆様お世話になっております。皆様はいかがお過ごしでしょうか？私高木がここ鹿児島市立病院へ赴任し、2年が経とうとしています。では『戦場より愛をこめて Part II』です。

現在鹿児島防衛ラインは総崩れに近い状態だが、花牟禮大将・直野准尉・高木准尉は現状を維持することに甘んじず、前進あるのみを肝に銘じ、前線を拡大すべく戦いを挑んでおりました。

平成21年6月には宮崎本隊からの派遣隊員である直野准尉が本隊へ栄転移動となり、交代隊員として後藤准尉が本部隊に合流した。また毎週水曜日には鹿児島本隊からの救援部隊（牧瀬曹長・馬越兵長）、1回/月程度宮崎本隊からの救援部隊（東野元帥・河野中将・松田少将）のおかげでなんとか戦っているのが、現状である。

また平成21年11月から2ヶ月間他国（中国、吉林省）から前線使節団鞠善徳大佐が前線視察に来られましたが、視察とは名ばかりで、実際には共同作戦を行いました。中国

での治療などの現状等について色々ディスカッションができ、有意義でありました。また視察だけでなく、視察後の温泉や食事会など交流を深めることができたと思われました。また今度は本部隊が中国・吉林省へ前線視察のオファーまでありましたが、実現するかは不明です。

鹿児島防衛ラインを死守するためには鹿児島本隊・宮崎本隊からの救援部隊だけではなく、様々な開業されている先生方のお力も必要と思います。皆様には様々な御迷惑をかけていると思いますが、今後とも鹿児島市立病院をお願いします。



## 藤元早鈴病院便り

森園 健介

皆様いかがお過ごしでしょうか。藤元早鈴病院に勤務させていただいております森園です。去年の病院便りで都城島津家について書かせていただきましたが、その後3月27日に都城島津伝承館及び都城島津邸としてオープン致しましたので、早速オープン翌日に見学に行ってきました。立派な門構えの奥に中庭を挟んで都城島津家の本邸があり、その周囲に蔵、剣道場などの古くからの建物と今回新たに建てられた都城島津伝承館がありました。まずは寄贈された史料が展示されている都城島津伝承館を見学してみました。(見学料210円) 入口を入るとまずは年表があり、職員の方が都城島津家の歴史を丁寧に解説されていました。しばらく聞いていましたが、前回の病院便りに書いた内容はたぶん間違っていないか?と思います。その奥に色々と展示物が飾ってありますが、一番目を惹くのは8代北郷忠相のものとして展示されている大きなV字型の兜飾りが付いた鎧でしょうか。その他には島津家お馴染みの丸に十文字の家紋が入った陣羽織や火縄銃、屏風や書状などが飾られていました。また昭和48年に宮崎県で全国植樹祭が行われた際に昭和天皇と皇后がこのお屋敷に宿泊されていたとのことで、そのときの様子を撮影した写真や供された食事のサンプルがなかなか興味深かったです。

続いては実際に当主の方が住まわれていた都城島津邸。(見学料100円) ととても広い日本家屋なのですが、天皇陛下が宿泊された際に建て増しされたところだけ洋風の様式となっておりました。目の前に広がる日本庭園の奥にはテニスコートや小さなプールなどもあり、当時の優雅な生活に思いを馳せてしまいました。

開館当初で充分整備されてなかったのかもしれませんが、展示物がやや少ないのがちょっと残念でした。それでも敷地内を散策するだけでも旧華族の歴史ある佇まいを味わえますので、都城に来られる機会があれば一度見学されてみてはいかがでしょうか。

さてそれでは最近の病院の様子についても少し記載したいと思います。この文を書いている時期が相当遅いことが露呈してしまうのが辛いところですが、只今宮崎県内では口蹄疫が蔓延しており、畜産農家に多大な影響を及ぼしております。周辺の道路を走っていても各所で消毒スポットが設置されており、全ての車が消毒対象となっております。そして現在は当院でも玄関や駐車場の入口などの各所に消毒用のマットが敷かれるようになりました。既にパンデミックとも言えるような状況ですが、こうした地道な取り組みで少しでも被害が食い止められることを切に願います。

つらつらと駄文を書いてお茶を濁してしまいました。日々の業務においては引き続き大学病院の先生方や、近隣の先生方に御迷惑をおかけすることが多々あるかと思いますが、今後ともどうか宜しくお願いいたします。

## 鹿児島生協病院

積山幸祐

生協病院では2006年6月から着工したりニューアル工事が終了し306床の病院になりました。ピンク色を主としたきれいな病床で患者さんの評判もいいようです。運がいい患者さんは、新しくできたきれいな個室に入れます。差額料金は頂いてないようです。しかし耳鼻咽喉科外来は依然として昔のままで、ユニットの椅子は開設以来の25年物です。手術室は、一部屋増えて4室あり、麻酔科の常勤医も4人いる恵まれた環境です。手術は入れようと思えばどんどんは入ります。一人体制のため限界もありますが、手術と入院を中心に頑張ります。ご紹介ください。

最後に2009年4月から10年3月までの手術室での手術症例を示します。昨年より増加しました。

2009年度

|                 |    |                          |     |
|-----------------|----|--------------------------|-----|
| 扁桃摘(アデノイド切除を含む) | 60 | E S S (含P O M C, 鼻中隔矯正術) | 18  |
| アデノイド切除術        | 3  | 原発性前頭洞嚢胞開放術(E S S)       | 1   |
| U P P P         | 1  | 鼻茸切除術                    | 8   |
| 顎下腺摘出術(腫瘍+唾石)   | 2  | 鼻前庭嚢胞摘出術                 | 1   |
| 正中頸嚢胞摘出術        | 2  | 鼻腔腫瘍摘出術                  | 3   |
| 頸部リンパ節生検        | 1  | 眼窩壁骨折整復術(E S S)          | 1   |
| 皮下腫瘍摘出術         | 5  | 鼻中隔矯正術+粘膜下鼻甲介骨切除         | 3   |
| 頬部腫瘍摘出術         | 1  | 鼓室形成術                    | 1   |
| L M S           | 9  | 鼓膜形成術                    | 2   |
| 気管切開術           | 2  | 湯浅式                      | 4   |
| 先天性耳瘻孔摘出術       | 1  | 鼓膜チューブ留置術(全麻)            | 4   |
| 舌小帯短縮症手術        | 1  |                          |     |
|                 |    | 合計                       | 134 |

## 天 辰 病 院 便 り

谷 本 洋 一 郎

天辰病院に赴任してから約2年が過ぎようとしています。天辰病院は外科，胃腸科，眼科，耳鼻咽喉科よりなりますが，耳鼻咽喉科外来だけは本院とは2軒はなれたあまたつクリニックで診療しています。クリニックの耳鼻科診察室の上の階には職員の子供さんたちのための託児所（アミーゴ）があり，毎日元気な声が響き渡っています。そのため少し鼻水が出ると毎日のように鼻処置に団体で降りてきてくれるので，良いのか悪いのか今ではすっかり慣れて1－2歳の子供も泣かないどころか微動だにせずに鼻処置を受けてくれます。赴任当初はまだ生まれたばかりだった赤ちゃんがもう話すようになっていたり，赴任した時はまだ妊娠もしていなかった職員が妊娠し，出産し，その子の鼻処置をしていると，2年という期間は意外と長いんだと思うのと同時に，子供の成長の早さを感じます。

また平成20年10月より全身麻酔下手術を始めさせていただき，1年半近く経過しましたが，手術日が土曜の午後に限られていること，もちろん自分自身の力不足もありますが，まだ十分な症例を経験できていません。できるだけ早い手術を希望される患者さん等いらっしゃいましたら御紹介いただけると幸いです。

手術症例（局所麻酔も含む）

|                 |    |
|-----------------|----|
| 扁桃摘（アデノイド切除も含む） | 15 |
| ESS（POMC含む）     | 11 |
| 鼻中隔矯正術          | 1  |
| 鼻骨骨折整復術         | 1  |
| 鼻茸切除術           | 3  |
| 顔面骨骨折整復術        | 1  |
| 粘液嚢胞摘出術         | 5  |
| その他（耳介血腫，唾石等）   | 5  |

計 42

当院の入院患者さんは大学から御紹介いただいた突発性難聴，顔面神経麻痺，化学療法，放射線治療等の患者さんが主ですが，開業医の先生方から急性感染症の安静，抗生剤点滴目的の入院等も御紹介いただいております。今後も手術症例も含めまして当院のベッドを御利用頂けますようお願いいたします。

## はるか離島の診療所から

なが の ひろ み  
永 野 広 海

### はじめに

わたしの勤務していた診療所は、薩摩半島の串木野港から西方に約70km、フェリーで約2時間半の東シナ海甌島列島の下甌島にある。本土とは、船舶が唯一の交通手段である。

甌島列島の総人口は約6000名で、鹿島地区（約500名）・長浜地区（約1200名）内川内地区（約50名）を当診療所が担当している。地区によっては65歳以上の高齢者の割合が90%以上にも達し、島内の平均でも約50%とまさに『洋上の・・・』である。15歳未満の割合は約9%である。ただしこれはどこか遠い国の話ではなく、約40年後の日本全体の姿でもある。

当診療所は、薩摩川内市が運営し、鹿児島県から派遣された1名の医師が2-3年ごとに交代する。わたし自身は耳鼻咽喉科診療のみ診療を行ないたいところであるが、ここは離島、同地区に他に医療機関がないため高血圧や糖尿病などの慢性疾患の管理を中心に皮膚疾患・精神疾患・外傷・脳血管障害なんでも診療しなければならない。（ただし忙しいわけではなく、3食自宅昼寝付き）

わたし自身は離島での勤務は連続6年目にもなるが、船に弱いためフェリーを見ただけで唾液が分泌されるようになってきた。

### 高齢化社会について思うこと

加齢は、様々な機能変化をきたしてくる。自覚する症状、自覚しない症状、またADLへの影響の大きいものから少ないものも。受容で症状、受容できない症状。それらは家庭環境・生活環境・価値観・地域性などにより影響される。また受診する医療機関・主治医に影響されることもある。高齢者が新たに医療機関を単独で受診するには労力・費用など要し、若者が考えるほど簡単なことではない。特に離島や僻地では、眼科、皮膚科、耳鼻咽喉科、整形外科などの診療科は少ないことが多い。となると症状に優先順位をつけて医療機関を受診せざるをえない。例えば難聴・視力低下・関節痛を考えると、耳鼻咽喉科領域の症状は悲しいが優先順位が低くなりがちである。実際に離島で診療していると耳鼻咽喉科医療機関への紹介を希望される症例・必要する症例は多くはない。しかし難聴患者は高頻度で存在していることは事実であるが、適切に耳鼻咽喉

科施設を受診し補聴器を使用している方はごくごく一部である。まして味覚障害，嗅覚障害はなおさらである。高齢化に伴う人口構成の変化が，今後耳鼻咽喉科診療に影響を及ぼす潜在的リスクを考えざるをえない。

最後になりましたが平成22年4月より鹿児島大学耳鼻咽喉科教室でしばらく勉強させていただくことになりました。同門会の皆様には大変御迷惑をかけます点はお詫びさせていただきます。また御指導・御鞭撻の程よろしく申し上げます。

## 鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科ホームページ

牧瀬 高穂

IT化が社会の常識となった昨今、当科では以前より公開していた当科ホームページをリニューアルし公開いたしました。医局のみならず、地方部会・同門会を1つのサイトにすることで、情報をより有機的に配信することが可能となりました、将来的には鹿児島県における耳鼻咽喉科医療に関するすべての情報を、このサイトで公開・発信する予定です。まだまだ始まったばかりのサイトですので不備が多くあるかと思えます。改善点などの御意見御感想をいただき、皆様のお役にたてるよりよいサイトにいたしたいかと存じます。よろしく願いいたします。

ホームページアドレス：<http://www.kufm.kagoshima-u.ac.jp/~ent/>

## いぶすき菜の花マラソン顛末記

牧瀬 高穂

太古、出雲の国で八岐大蛇を酒に酔わせて成敗した伝説は、だれもが一度は耳にしたことのある酒にまつわる話であろう。人類史において、酒がどれほどの影響力を持っているかは定かではない。しかし、魔力ともいべきその酒の秘めた力によって、時には本人さえも予想しえない結末が待っていることがある。

すべての始まりはある年末の忘年会でのことであつた。私は忘れもしない。やや薄暗いバーのソファに身を沈め、心地よいピアノの生演奏を聴き、芳醇なカクテルの余韻を楽しみ、私はテーブルの上で交わされる会話に耳を傾けていた。何の話の途中であつたか今となっては定かではないが、目の前で繰り広げられていた会話の中である提案が持ち上がった。「マラソンに参加し、完走したら夏休みを1週間多くしよう。」？「どうせならホノルルマラソンに参加しよう」？？「ただし、論文を書いたらね。」！！すべては鶴、否、教授の一声から始まった。決して酒の力だけではないが、なんでもやりたがりの私は「もちろん、行きましょう。」と宣言していた…。

その後、忙しい日常の中でマラソン参加を忘れてたり思い出したししつつ、論文を書かなければならないことも忘れてたり思い出したりしつつ、月日は無情に過ぎて行つた。ホノルルマラソン開催まで2カ月程となつた頃、ホノルルマラソン参加は教授の忙しい日程上不可能とのことで、来年以降へ持ち越しとなり、このまま闇に葬られるかと思われた。しかし、鹿児島には歴史ある市民マラソン大会があることに気がついた。そう、い

ぶすき菜の花マラソンである。おもてなしマラソンで有名なこの大会へ参加することとなり、耳鼻咽喉科マラソン部（仮称）を結成、参加者を募ったところ、「マラソン走ったら死んでしまう」や、「わざわざしんどいことをしなくてもいいんじゃない」といった意見（忠告？）が聞かれる中、教授、馬越先生、川嶋さん（外来看護師）、宮内さん（医局秘書）、私の5名が集まった。私個人としては、事前に文献（マラソン雑誌）を集めて精読し、自宅の近所を夜な夜な走り回って、準備万端の気分で当日を迎えることとなった。問題の論文は、教授のお力添えで何とか提出することができた。

大会当日、バスで現地へ向かい、受付を済ませ、いよいよスタート。初めは教授の姿を追いながら走っていたが、すぐにランナーの中で見失うこととなった。10キロ以上走ったことのない私は、周りの雰囲気にも飲まれ、気分良く走り始めてしまい、20キロ地点までは快調に鼻歌交じりで走っていた。文献によると典型的なマラソン初心者が陥るパターンで通称「玉砕型」と呼ばれ、いずれ走れなくなることは明らかであった…。そして、その時は突然やってきた。そう、心と体が全く別の世界へ乖離してしまう、走ろうと思っても体がいうことをきかない、走れないという状態で、初めての体験であった。そこからは、日頃ならなんでもないちょっとした道の起伏がこんなにも辛いものかと感嘆しつつ、ただひたすらゴールを目指して、棒のような足で一步一步進んでいった。途中、何度かリタイヤがよぎるものの、一度リタイヤしたら今後何言われるかわかったものではない（笑）と自分に言い聞かせ、ただひたすら歩きつづけた。途中、川嶋さんに追い抜かれ、宮内さんに追い抜かれ、88歳の最高齢ランナーに抜かれ、気合いで歩き続けること8時間、ようやくゴールすることができた。ゴール後に、教授と馬越先生は日ごろから鍛えたその肉体で6時間を切るペースでゴールしたと聞き、さすがだなあと感心した。ゴール以降、下半身を中心とした筋肉痛でぎこちない動きとなったことは言うまでもない。

今回初めて参加したマラソンではあったが、何とも言えない充実感を得ることができた。まるで人生の縮図のようなマラソンは、一度は走ったほうが良いとつくづく感じた1日であった。来年は菜の花マラソンではなく、ホノルルマラソンへ参加、完走するという新しい目標ができた。参加希望の方、いつでも入部可能です（笑）。論文も書かなければいけません。

ところで、夏休みは1週間増えるのだろうか…。

## X. 関連病院

(平成22年4月現在)

| 病 院 名               | 郵便番号     | 住所 (TEL・FAX)                                                 | 外来診療曜日                                                        | 手術曜日         |
|---------------------|----------|--------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|--------------|
| 国立病院機構<br>鹿児島医療センター | 892-0853 | 鹿児島市城山町8-1<br>TEL:099-223-1151<br>FAX:099-226-9246           | 月・水・金<br>(8:30~11:00)                                         | 月・火・水<br>木・金 |
| 国立療養所星塚敬愛園          | 893-0041 | 鹿屋市星塚町4204<br>TEL:0994-49-2500<br>FAX:0994-49-2542           | 火・木<br>(8:30~17:00)                                           |              |
| 県立大島病院              | 894-0015 | 奄美市名瀬真名津町18-1<br>TEL:0997-52-3611<br>FAX:0997-53-9017        |                                                               |              |
| 県民健康プラザ<br>鹿屋医療センター | 893-0013 | 鹿屋市札元1-8-8<br>TEL:0994-42-5101<br>FAX:0994-44-3944           |                                                               |              |
| 鹿児島市立病院             | 892-8580 | 鹿児島市加治屋町20-17<br>TEL:099-224-2101<br>FAX:099-223-3190        | 新患 月・水・金<br>再診 火・木<br>(8:30~11:00)                            | 月・水・金        |
| 済生会川内病院             | 895-0074 | 川内市原田町 2-46<br>TEL:0996-23-5221<br>FAX:0996-23-9797          | (休診中)                                                         |              |
| 鹿児島生協病院             | 891-0141 | 鹿児島市谷山中央<br>5丁目20-20<br>TEL:099-267-1455<br>FAX:099-260-4783 | 月・火・木・金<br>(8:30~17:30)<br>水・土<br>(8:30~12:30)<br>(新患は30分前まで) | 火・水・木<br>の午前 |

| 病 院 名     | 郵便番号     | 住所 (TEL・FAX)                                                  | 外来診療曜日                                                           | 手術曜日 |
|-----------|----------|---------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|------|
| 今村病院分院    | 890-0064 | 鹿児島市鴨池新町11-23<br>TEL:099-251-2221<br>FAX:099-250-6181         | 火・土<br>(8:30~11:30)                                              |      |
| 藤元早鈴病院    | 885-0055 | 都城市早鈴町17-1<br>TEL:0986-25-1212<br>FAX:0986-25-8941            | 月・水・木・金<br>(9:00~17:00)<br>火<br>(9:00~11:00)                     | 火の午後 |
| 市比野記念病院   | 895-1203 | 薩摩郡樋脇町市比野3079<br>TEL:0996-38-1200<br>FAX:0996-38-0715         | 火・木<br>(14:00~18:00)<br>土<br>(9:00~18:00)                        |      |
| あまたつクリニック | 891-0175 | 鹿児島市桜ヶ丘4-1-6<br>TEL:099-264-5553<br>FAX:099-264-1771          | 月・木・金<br>(9:00~18:00)<br>火<br>(14:00~18:00)<br>土<br>(9:00~13:00) | 火の午前 |
| 垂水中央病院    | 891-2124 | 垂水市錦江町 1-140<br>TEL:0994-32-5211<br>FAX:0994-32-5722          | 火・木<br>(13:30~16:00)<br>土<br>(8:30~11:30)                        |      |
| 加治木温泉病院   | 899-5241 | 始良郡加治木町木田字<br>松原添4714<br>TEL:0995-62-0001<br>FAX:0995-62-3778 | 火・木<br>(8:30~11:30)                                              |      |

| 病 院 名     | 郵便番号     | 住所 (TEL・FAX)                                          | 外来診療曜日                                                     | 手術曜日 |
|-----------|----------|-------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|------|
| 田上病院      | 891-3198 | 西之表市西之表7463<br>TEL:09972-2-0960<br>FAX:09972-2-1313   | 火<br>(9:00~17:30)<br>水<br>夏(14:00~17:00)<br>冬(14:00~16:20) |      |
| 阿久根市民病院   | 899-1611 | 阿久根市赤瀬川4513<br>TEL:0996-73-1331<br>FAX:0996-73-3708   | 火・金<br>(8:30~15:30)                                        |      |
| 指宿鮫島病院    | 891-0406 | 指宿市湯の浜1-11-29<br>TEL:0993-22-3079<br>FAX:0993-22-3019 | 月・火・木・金<br>(8:30~15:00)<br>土(8:30~12:00)                   |      |
| 栗生診療所     | 891-4409 | 熊毛郡屋久島町栗生1743<br>TEL:09974-8-2103<br>FAX:09974-8-2751 | 隔週木曜日<br>(8:00~15:30)                                      |      |
| 豊永耳鼻咽喉科医院 | 868-0037 | 人吉市南泉田町120<br>TEL:0996-22-2031                        | 火・木<br>(16:00~18:00)<br>土<br>(9:00~15:00)                  |      |
| 鹿児島厚生連病院  | 890-0061 | 鹿児島市天保山町22-25<br>TEL:099-252-2228<br>FAX:099-252-2736 | 火・金<br>(8:30~17:00)                                        |      |
| 公立種子島病院   | 891-3701 | 熊毛郡南種子町<br>中之上1700-22<br>TEL:0997-26-1230             | 隔週木曜日<br>(8:30~16:00)                                      |      |

| 氏 名                                               | 在 局 期 間                                        | 連 絡 先                                                                                                                                                         |
|---------------------------------------------------|------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 李 廷権<br>(韓国, 延世大学)                              | 昭和60年7月1日<br>~61年12月25日<br>平成元年6月26日<br>~8月25日 | Department of Otolaryngology<br>Severance Hospital<br>College of Medicine Yonsei University<br>C.P.O. BOX 8044, Seoul, 100-680<br>KOREA<br>TEL 82-2-2228-3605 |
| 2 Richard T. Jackson<br>(アメリカ, Emorty 大学)         | 昭和60年9月6日<br>~12月5日                            | Emory University School of Medicine Center<br>Laboratory of Otolaryngology<br>441 Woodruff Memorial Building<br>Atlanta, Georgia 30322<br>U.S.A.              |
| 3 関 陽基<br>(韓国, ソウル大学)                             | 昭和61年1月22日<br>~2月21日                           | Department of Otolaryngology<br>College of Medicine Seoul National University<br>28 Yoongun-Dong, Chongro - Koo<br>Seoul 110, KOREA                           |
| 4 Sumet Peeravud<br>(タイ, ソンクラ大学)                  | 昭和62年5月7日<br>~7月11日                            | Department of Otolaryngology<br>Faculty of Medicine,<br>Prince of Songkla University<br>Haadyai, Songkla<br>Thailand                                          |
| 5 Khemchart<br>Tonsakurunguang<br>(タイ, チョラロンコン大学) | 昭和62年6月25日<br>~63年6月14日                        | Department of Otolaryngology<br>Faculty of Medicine Chulalongkorn University<br>Bangkok 10500, Thailand                                                       |
| 6 金 濟霖<br>(中国, 中国医科大学)                            | 昭和62年8月1日<br>~10月29日                           | 中華人民共和国<br>沈阳市和平区南京街五段三号<br>中国医科大学附属第一医院<br>耳鼻咽喉科学教室                                                                                                          |
| 7 Phanuvich Pumhirum<br>(タイ, タイ軍医科大学)             | 昭和63年3月9日<br>~3月31日                            | Department of Otolaryngology<br>Phra Mongkutklao Hospital<br>Bangkok 10400,<br>Thailand                                                                       |
| 8 Phakdee Sannikorn<br>(タイ, ラジブチ病院)               | 昭和63年4月5日<br>~平成元年6月5日                         | Department of Otolaryngology<br>Rajvithi Hospital<br>Rajvithi Road, Phayathai, Bangkok 10400<br>THAILAND TEL 2460052 EXT 520                                  |

XI. 海外同門会名簿

| 氏 名                                              | 在 局 期 間                                                                            | 連 絡 先                                                                                                                              |
|--------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 9 Acharee Sorasuchart<br>(タイ, チェンマイ大学)           | 昭和63年 4月24日<br>～ 5月15日                                                             | Department of Otolaryngology,<br>Faculty of Medicine, Chiang Mai University<br>Chiang Mai 50002, THAILAND                          |
| 10 Cheerasook<br>Chongkolwatana<br>(タイ, マヒドール大学) | 昭和63年 5月 9日<br>～ 9月30日                                                             | Department of Otolaryngology<br>Faculty of Medicine Siriraj Hospital<br>Mahidol University<br>Bangkok 7, THAILAND                  |
| 11 Chul-Hee Lee<br>(韓国, ソウル大学)                   | 昭和63年 7月14日<br>～ 8月14日                                                             | Department of Otolaryngology<br>College of Medicine, Seoul National University<br>28 Yeonkun-dong, Chongro-ku, Seoul, 110<br>KOREA |
| 12 金 春順<br>(中国, 白求恩医科大学)                         | 平成元年 3月 6日<br>～ 4月 5日<br>平成 2年 4月 1日<br>～ 9月30日 (11月14日)<br>平成 4年10月26日<br>～11月 3日 | 中国吉林省長春市南岭小街吉林工大新村18棟 5<br>号                                                                                                       |
| 13 Surat Mongkolaripong<br>(タイ, ラジブチ病院)          | 平成元年 3月10日<br>～10月31日                                                              | Department of Otolaryngology<br>Rajvithi Hospital<br>Rajvithi Road, Phayathai, Bangkok 10400<br>THAILAND TEL 2460052 EXT 520       |
| 14 Pierre-Marie Benezeth<br>(フランス, グルノーブル大学)     | 平成元年 9月 8日<br>～10月17日<br>平成 3年 4月 7日<br>～ 4月 9日                                    | 7 Place De La Republique<br>26000 Valence<br>France<br>TEL 75-43-11-86 FAX 75-55-41-10                                             |
| 15 Preedee Ngaotepprutaram<br>(タイ, マヒドール大学)      | 平成元年 9月14日<br>～ 2年 9月13日                                                           | Department of Otolaryngology<br>Prapokkklao Hospital<br>Amphoe Muang, Chanthaburi 22000,<br>THAILAND                               |
| 16 Myung-Whun Sung<br>(韓国, ソウル大学)                | 平成 2年 1月20日<br>～ 3月19日                                                             | Department of Otolaryngology<br>College of Medicine, Seoul National University<br>28 Yeonkun-dong, Chongro-ku, Seoul, 110<br>KOREA |
| 17 鄭 勝圭<br>(韓国, 延世大学)                            | 平成 2年 3月 9日<br>～ 3年 4月27日                                                          | Department of Otolaryngology<br>Samsung Medical Center<br>50 Ilwon-dong, Kangnam-ku<br>Seoul, 135-230<br>KOREA 135-230             |

XI. 海外同門会名簿

| 氏 名                                               | 在 局 期 間                                                               | 連 絡 先                                                                                                                                                        |
|---------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 18 Markus Rautiainen<br>(フィンランド, クオピオ大学)          | 平成 2 年 12 月 7 日<br>～ 3 年 12 月 21 日<br>平成 5 年 10 月 12 日<br>～ 10 月 17 日 | Department of Clinical Sciences (ENT)<br>Tampere University, PL607<br>SF-33101 Tampere<br>Finland                                                            |
| 19 Dacha Noonpradej<br>(タイ, ハジャイ病院)               | 平成 3 年 4 月 10 日<br>～ 9 月 7 日                                          | Department of Otolaryngology<br>Haadyai Hospital<br>Haadyai, Songkhla, 90110<br>Thailand<br>TEL 074-230800-4                                                 |
| 20 Chehlah Muhmaddaoh<br>(インドネシア, YARSI 医科<br>大学) | 平成 4 年 5 月 17 日<br>～ 5 年 5 月 16 日                                     | 113/18 Siroros Road<br>T. Seteng<br>A. Muang<br>C. Yala (95000)<br>Thailand<br>FAX 66-073-221665                                                             |
| 21 方 深毅<br>(台湾, 台湾大学)                             | 平成 4 年 7 月 1 日<br>～ 9 月 26 日                                          | Department of Otolaryngology<br>National Cheng Kung University Hospital<br>138, Sheng hi Road, Tainan 70428<br>Taiwan, R.O.C.<br>TEL 06-2353535 EXT 2309     |
| 22 Ic-Tae Kim<br>(韓国, ソウル大学)                      | 平成 5 年 8 月 3 日<br>～ 9 月 28 日                                          | Department of Oto ; laryngology<br>College of Medicine, Seoul National University<br>28 Yeonkun-dong, Chongro-ku, Seoul, 110<br>KOREA                        |
| 23 Joon-Heon Yoon<br>(韓国, 延世大学)                   | 平成 5 年 6 月 5 日<br>～ 6 月 8 日<br>平成 6 年 1 月 18 日<br>～ 3 月 1 日           | Department of Otolaryngology<br>Severance Hospital<br>College of Medicine Yonsei University<br>C.P.O. BOX 8044, Seoul, 100-680<br>KOREA<br>TEL 82-2-361-5780 |
| 24 Prasit Mhakit<br>(タイ, Pramongkutklao 大<br>学)   | 平成 6 年 3 月 11 日<br>～ 6 月 4 日                                          | Department of Otolaryngology<br>Pramongkutklao College of Medicine,<br>Thailand<br>TEL 662-246-0066 EXT 3076, 3100                                           |
| 25 呂 宏光<br>(中国, 大連医科大学)                           | 平成 6 年 4 月 2 日<br>～ 4 月 19 日                                          | 中華人民共和国<br>大連市中山路222號<br>大連医科大学附属第一病院<br>耳鼻咽喉科学教室<br>〒 116011<br>TEL 3635963-3088                                                                            |
| 26 王 振 海                                          | 平成 5 年 1 月 25 日<br>～ 平成 9 年 3 月 31 日                                  | 中国医科大学附属第二病院<br>耳鼻咽喉科                                                                                                                                        |

XI. 海外同門会名簿

| 氏 名                                 | 在 局 期 間                  | 連 絡 先                                                                                                                                                  |
|-------------------------------------|--------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 27 Jussi Laranne<br>(フィンランド, タンペレ市) | 平成6年4月4日<br>～7年6月13日     | SUKKAUAR TAAN KATU 6A8<br>33100 TAMPERE<br>Finland                                                                                                     |
| 28 Sidagis Jorge                    | 平成6年10月3日<br>～11年3月31日   | Comp. Hab. Malvin Norte,<br>Calle 122, N° 2152/301, Block 7,<br>Montevideo, CP11400 U<br>URUGUAY (South America)                                       |
| 29 馬 秀 嵐<br>(中国, 中国医科大学)            | 平成8年1月25日<br>～8年12月30日   | 中国瀋陽市和平区南京北155号<br>中国医科大学第一臨床学院耳鼻咽喉科<br>〒110001                                                                                                        |
| 30 歐 俊 巖                            | 平成13年3月23日～H13. 9        | Department of Otolaryngology<br>National Cheng Kung University Hospital<br>138, Seng Li Rd., Tainan Taiwan<br>TEL +886-6-2353535<br>FAX +886-6-2377404 |
| 31 孫 東                              | 平成13年4月2日～H17. 3         | 114003<br>中国遼寧省鞍山市鉄来区对炉山新呉衛21-7号                                                                                                                       |
| 32 王 旭 平                            | 平成20年11月1日<br>～H21年2月13日 | 〒210002<br>中国江苏省南京市白下区楊公井34棟34号<br>南京市楊公井病院 耳鼻咽喉科<br>電話番号：86-25-80864050 (office)<br>86-25-84542942 (home)                                             |

| 氏 名     | 最終職別  | 在 局 期 間                    |
|---------|-------|----------------------------|
| 西 宜 行   | 研 修 生 | 59. 4-59. 6                |
| 河 野 正 樹 | 研 修 生 | 60. 4-60. 6<br>61. 1-61. 3 |
| 山 内 慎 介 | 研 修 生 | 62. 4-62. 6                |
| 四 元 俊 彦 | 研 修 生 | 63. 4-63. 6                |
| 畑 幸 宏   | 研 修 生 | 63.10-63.12                |
| 三 角 芳 文 | 研 修 生 | 63.10-63.12                |
| 吉 満 伸 幸 | 研 修 生 | H2. 7-H2. 9                |
| 斧 淵 泰 裕 | 研 修 生 | H2.10-H2.12                |
| 宮 原 広 典 | 研 修 生 | H3. 1-H3. 3                |
| 黒 木 茂   | 研 修 生 | H5. 7-H5. 9                |
| 神 野 公 宏 | 研 修 生 | H5.10-H5.12                |
| 藤 郷 秀 樹 | 研 修 生 | H5.10-H5.12                |
| 的 場 康 平 | 研 修 生 | H7. 1-H7. 3                |
| 伊瀬知 敦   | 研 修 生 | H7.10-H7.12                |
| 泊 口 哲 也 | 研 修 生 | H8. 1-H8. 3                |
| 島 名 昭 彦 | 研 修 生 | H8. 7-H8. 9                |
| 福 田 弘 志 | 研 修 生 | H8.10-H8.12<br>H9. 4-H9. 6 |
| 安 藤 五三生 | 研 修 生 | H9. 1-H9. 3                |
| 吉 元 英 之 | 研 修 生 | H10.4-H10.6                |
| 肘 黒 公 博 | 研 修 生 | H11.1-H11.3                |
| 横 山 孝 二 | 研 修 生 | H11.4-H11.6                |

| 氏 名     | 最終職別  | 在局期間         |
|---------|-------|--------------|
| 田 中 裕 之 | 研 修 生 | H11.7-H11. 9 |
| 永 野 広 海 | 研 修 生 | H13.6-H13.12 |
| 森 田 義 紀 | 研 修 生 | H15.1-H15. 3 |

## 鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室 同 門 会 会 則

### (総則)

第1条 本会は鹿児島大学大学院聴覚頭頸部疾患学教室同門会と称する。

第2条 本会は鹿児島大学大学院聴覚頭頸部疾患学教室（以下教室と略す）に事務所をおく。

### (目的ならびに事業)

第3条 本会の目的は会員相互の親睦を図り、学術研究ならびに社会的発展に資するにある。

第4条 本会は前条の目的を達成するため次の事業を行う。

1. 同門会総会の開催
2. 同門会誌ならびに会員名簿の発行
3. 記念事業の開催
4. その他本会の目的を達成するために必要な事業

### (会則)

第5条 本会は会員を次のとおりとする。  
教室に在籍又はこれと同等と認められる者。本会の趣旨に賛同し入会を希望して承認された者。

第6条 本会の運営は会費及び寄付金をもって行う。会費は年会費（開業医10,000円、勤務医4,000円）を納めるものとする。特別会員、顧問は会費を免除する。  
(但し70歳以上)

第7条 会費を滞納した会員は本会より連絡を受けられないことがある。

第8条 会員は希望により退会することができる。

第9条 会員であって本会ならびに教室の名誉を著しく傷つけた場合には役員会の決議を経て会長がこの者を除名することができる。

### (役員)

第10条 本会には次の役員をおく。会長1名、副会長、理事、監事、幹事それぞれ若干名。

なお本会に名誉会長ならびに顧問をおくことができる。役員任期は3年とする。

第11条 会長は教室主任教授又は同門会会員から選び、会務を統轄する。

第12条 役員改選時、(旧)役員会は(新)会長候補を決定し、総会での承認を経て

新会長が選出される。

第13条 副会長は会員の中から会長がこれを委嘱し、会長を補佐する。

第14条 理事は会員の中から会長がこれを委嘱し、会務を審議する。

第15条 幹事は役員会においてこれを選出し、会長がこれを委嘱する。幹事は会計を監査する。

第16条 幹事は会員の中から会長がこれを委嘱し、会務処理に当たるものとする。

第17条 名誉会長ならびに顧問は会員の総意に基づき推挙されるものとする。

(会議)

第18条 総会は年1回開催する。必要があれば会長は臨時総会を招集し得る。総会における決議は出席会員の過半数をもってする。

第19条 役員会は会長が招集し、事業計画、経理その他重要な事項を審議する。

(会則の変更)

第20条 本会の会則は総会の承認を得て、変更することができる。

(本会則は平成22年1月17日より施行する。)

## ●●●●●●●●●● 編 集 後 記 ●●●●●●●●●●

まず念頭に、編集委員を務めてくださった原田みずえ先生・牧瀬高穂先生・秘書の大夫堀昌子さんをはじめとし、御多忙な勤務の中、御寄稿に関して快くお受け頂き、執筆して頂いた諸先生方に対しお礼を申し上げます。今年も誠に有難うございました。

また、協賛頂きました各社様にも心よりお礼を申し上げます。

今年度、残念ながら新しい医局員には恵まれませんでした。誰一人として大きな病気や怪我もなく無事に1年間を過ごすことが出来ました。多忙を極めていることはさて置いて、この不景気の中、当病棟は常に、満床状態を維持したままで新年度へ突入し、今更ながら必要とされている職務に就けることに感謝し、その業務に携わる以上、責任の心をもって進んでいかなくてはならないと思う所存です。また、その背景には、それを支えて下さる開業の諸先生方、関連病院の先生方、関係者の皆様方あってのことであると肝に銘じ、また新たに気持ちを引き締めて少しずつですが、一步一步進んでいきたいと考えております。

最後に、本誌が皆様のつながりを深める良き存在となりますよう祈念しまして結びの言葉と致します。今後とも御指導、御鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

平成22年3月吉日

編集長（医局長） 早水 佳子

編集委員 原田みずえ

牧瀬 高穂

大夫堀昌子

## さくらじま 第24号

平成22年8月2日 印刷

平成22年8月6日 発行

発 行 鹿 児 島 大 学 大 学 院  
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室  
電話 (099) 275-5410

印 刷 斯 文 堂 株 式 会 社  
電話 (099) 268-8211